

画 报 特 刊

2006年度

讲 义 计 画

桃山学院大学

画

計

義

講

科 目 名			
アジア経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	唐 成

【講義概要・学習目標】

本講義は①アジア経済を多角的に分析すること、②アジアの経済パフォーマンスの特徴を分析すること、③世界の中のアジアの実態を理解すること、を目的としている。具体的に、次の5つの分析視点から、すなわち、第1に、東アジアの著しい経済発展、第2に、ベトナムをはじめいくつかの国が計画経済から市場経済への移行経済、第3に、日本と東アジアの経済関係、第4に、アジア経済の課題（経済危機、環境問題、貧富格差など）、第5に、地域統合へ向けての動き、という内容を中心として、アジア諸国の経済発展の経緯及び新たな動向を解説し、これからのアジア経済の行方を考察する。なお、本講義では、学生諸君のグループワークによるプレゼンテーションを取り入れる（詳しいことは授業中に決める）。

【授業計画】

1. 世界の中のアジア経済
2. 東アジア経済発展の歴史
3. 東アジアの軌跡（NIEsの経済発展）
4. 東南アジア（ASEAN）の経済発展
5. 工場と市場としての中国
6. 移行経済と中国経験
7. グローバル化と東アジア経済
8. 日本と東アジアの経済関係
9. アジア通貨危機
10. アジアの環境問題
11. 経済発展と所得格差
12. 地域統合の意義と課題
13. グループワークによるプレゼンテーション
14. グループワークによるプレゼンテーション

【成績評価の方法】

出席率、レポート、グループワークによるプレゼンテーションを加味して評価する。

【テキスト】

北原淳・西沢信善 著『アジア経済論』 ミネルヴァ書房、2004年。
毎回講義用プリントを配布する。

【参考文献】

原洋之介（著）『現代アジア経済論』岩波テキストブックス、2002年。

科 目 名			
アジア文化研究—インドネシアの開発と人口			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	深 見 純 生

【講義概要・学習目標】

人口という観点から東南アジア、とくにインドネシアという地域の理解をめざす。

インドネシアの社会と文化を理解するための重要な鍵は、開発の歴史と人口に関わる諸問題である。人口がインドネシア理解の鍵になる理由は、インドネシアが世界第4位の2億2千万という大きな人口を持つこと、それが不均等に分布し、とくにジャワ島の農村に滞留したことにある。

東南アジアは、モンスーンアジアという世界人口分布の中心にあるにもかかわらず、小人口世界である。そのなかでジャワ島は巨大人口を持つという複雑な構造がある。その生態学的な背景と人口増加のプロセスを考えてみよう。最後に現在のインドネシアの人口問題の核心であるジャワ島農村の貧困問題の動向を検討してみよう。

なお、視覚的理解のために適宜ビデオを用いる。なおまた、受講生はインドネシアに関する初歩的な知識（あるいは強い関心）のあることが望ましい。

【授業計画】

1. モンスーンアジアの中の東南アジア
2. 東南アジアの地域特性12ヶ条とインドネシア
3. 小人口世界としての東南アジア
4. 2000年国勢調査からみたインドネシア
5. ジャワの中心性—生態学的背景
6. ジャワ島の人口増加の歴史
7. 近年の動向—緑の革命とジャワ島農村の人口問題

【成績評価の方法】

期末テストおよび時々的小レポートを総合して評価する。

【テキスト】

特定の教科書は用いない。いわゆるノート講義であり、適宜資料を配付する。

【参考文献】

池端雪浦編『東南アジア史2 島嶼部』山川出版社 1999
京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997
坪内良博『小人口世界の人口誌』京都大学学術出版会 1998
その他、授業の中で示す。

科 目 名			
アジア文化研究－韓国・朝鮮文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	青 野 正 明

【講義概要・学習目標】

近年、日韓の交流が盛んになり、さらに「韓流」ブームも到来したため、現代韓国に関心をもつ人たちが急激に増えている。そこで、この授業では現代韓国の理解に重点を置き、日本文化との比較にも配慮しながら、韓国・朝鮮文化一般を概説しよう。具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、視覚資料の多い教材に画像やビデオも加え、画面を用いて説明していく。日韓の交流や相互理解のために必要な基礎知識を学び、さらに民族文化や民族アイデンティティについても考えていく、そんな講義にしたい。

【授業計画】

歴史 地理 宗教 言語 社会制度 風俗 集落と住居 衣服 料理と酒 美術 舞踊・演劇 音楽 北朝鮮事情 在日コリアン

【成績評価の方法】

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。とくに受講態度の悪い者には厳しい評価をする。

【テキスト】

金岡基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社、1993年

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。プリント類も配布する。

科 目 名			
アジア文化研究－中国の知的遺産			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	串 田 久 治

【講義概要・学習目標】

漢詩でスローライフ

本講義は中国の知識人の生きざまを通して、人生の悲哀を克服して心豊かに生きる方法を模索する授業です。

言うまでもなく、中国の知識人とは、官僚（政治家）であると同時に詩人であり、画家であり、文章家でもあります。彼らが政治的挫折を経験し、あるいは家族の不幸に遭遇した時、何を思い何を考えたか、人生の悲しみ・苦しみをいかにして乗り越えて生を全うしたのかを知り、ひとりひとりの将来に資することがこの授業の目的です。

そのため、本講義はただ聞いているだけの講義ではありません。学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、学生諸君が数名のグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することになります。

【授業計画】

第一部 生きる悲しみ・苦しみ

- 1 「故郷」
- 2 出会いと別れ
- 3 「敗北」
- 4 「正義」

第二部 生きる喜び・楽しみ

- 1 恋と結婚
- 2 家族
- 3 飲食
- 4 四季
- 5 老いのよろこび

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【テキスト】

串田久治・諸田龍美著『ゆっくり楽に生きる 漢詩の知恵』（学研）定価1400円

【参考文献】

林語堂著『支那のユーモア』（岩波新書）
 林語堂著『中国＝文化と思想』（講談社学術文庫）
 宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）
 串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』（中公新書）
 串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）
 串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
 KUSHIDA' S WEB SITE
<http://www1.odn.ne.jp/kushida>

科 目 名			
アメリカ経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	中 本 悟

【講義概要・学習目標】

アメリカン・スタンダードとアメリカングローバリゼーションを考える。

現在のGlobalizationは、Global Americanizationという様相が強い。これには、1980年代末の冷戦体制の解体に伴うグローバル規模での市場経済化の拡大のなかで、1990年代に最も市場経済原理が強く働くアメリカ経済とアメリカ企業のパフォーマンスが好調であったことから、アメリカの経済・経営モデルが至上のモデルとなり、グローバリゼーションの波に乗って伝播したという事情がある。そして、イデオロギーの上でも、Global Americanizationは強力である。

Global Americanizationを解明するためには、アメリカの政治経済におけるスタンダード、アメリカン・スタンダードをその実態と成果を歴史と現状において検討する必要がある。そのうえで、アメリカン・グローバリズム（アメリカのグローバル主義）およびアメリカン・グローバリゼーション（アメリカによるグローバル化）を解明することが重要である。ここに本講義のねらいがある。

本講義では、日米経済比較を重視するが、これによって日本経済についてもよりいっそう理解が深まる。

【授業計画】

各論題を2回または3回程度で講義する。

I アメリカンスタンダードの基本構造

- 1 産業構造
- 2 株主資本主義とコーポレート・ガバナンスの転機
- 3 労働市場の変遷とそのインパクト

II マクロ経済政策と政府規制

- 4 アメリカ型金融システムと証券資本主義
- 5 連邦政府財政と財政政策
- 6 政府規制とイノベーション
- 7 所得格差の長期的変化

III アメリカン・グローバリゼーション

- 8 多国籍企業と通商政策
- 9 国際金融システム不安とドル本位制
- 10 グローバリゼーションとパックスアメリカーナの再編

【成績評価の方法】

講義への出席と講義終了後のペーパー試験を総合的に評定する。

【テキスト】

萩原伸次郎・中本 悟編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005年。

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

科 目 名			
アメリカの演劇ー『ガラスの動物園』			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤 森 かよ子

【講義概要・学習目標】

アメリカの代表的劇作家のひとりテネシー・ウィリアムズ（Tennessee Williams : 1914-83）の代表作であるThe Glass Menagerie (1945) を精読 (close reading) します。

日本でも、この作品は、『ガラスの動物園』という題で、よく上演されてきました。1930年代の大不況時代のアメリカのセントルイスを舞台にした過去の幸福な思い出に縛られる母と引きこもりの娘と夢ばかり追う現実を見ない息子の3人家族の葛藤を描いたものです。現実直視と現実対処ができない家族の崩壊の悲喜劇を描いたものです。

この劇は、ブロードウェイはもとより、高校や大学演劇やアマチュアの地方演劇も含めて、今でもアメリカ合衆国では最も上演回数が多い劇作品のひとつです。「家族の葛藤」をテーマにしたものですので、受講生のみなさんにとっての家族の問題も考察する契機となるでしょう。

「原文による演劇テキストの鑑賞」というものを、じっくりやってみましょう。こういう経験は、学生時代の授業でしか味わうことができないものです。また、こういう読み方を通してこそできる、演劇解釈もありうるのです。楽しみつつ勉強できる題材です！

【授業計画】

- 第1回：作家Tennessee Williamsの人生と作品について
- 第2回から6回：テキスト精読
- 第7回：ビデオによる映画『ガラスの動物園』鑑賞
- 第8回から13回：テキスト精読
- 第14回：まとめ

【成績評価の方法】

出席と学期末レポートから、評価します。

【テキスト】

Tennessee Williams, The Glass Menagerie (New Directions Book)

★初回時に、担当教員の藤森が販売します。代金1000円を用意しておいてください。ただし、他の出版社が発行しているテキストをお持ちの方は、それを使用しても構いません。内容は同じですから。

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科 目 名			
アメリカの小説－アメリカの短篇小説			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	谷 本 泰 三

【講義概要・学習目標】

テレビドラマ「大草原の小さな家」の続編を読む。アメリカ中西部の大草原を厳しく生きる開拓者物語である。文学作品を批評するときの約束事や注意事項を習得して欲しい。文学作品を鑑賞する心と眼力をつけて欲しい。平易な英文作品をしっかりと読んで英語の読解力を身につけよう。

【授業計画】

Laura I. Wilderの作品These Happy Golden Yearsをゆっくりと読む。短い感想文・批評文を書く練習をする。出来れば、受講生が書いたものを相互に批評する時間を作りたい。

【成績評価の方法】

期末試験またはレポート。
出席率、クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。

科 目 名			
アメリカ文学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	佐々木 英 哲

【講義概要・学習目標】

作家及びその文学作品を取り巻く社会的・文化的状況、時代精神までを射程範囲に収めたうえで、アメリカ文学を通史的に概観することが本講義の目的である。アメリカ文学を俯瞰するという作業は多くの受講生にとって初めてのはずだ。その意味から授業は必然的に導入的意味合いが強くなる。しかしながら担当者としては、単に一方的講義による作家・作品解説に終始する授業にはしたくないと思っている。アメリカ文学史を支える屋台骨と「見なされてきた」主要作家の手による代表的な作品——近年、文学史に於けるその評価の正当性が根幹から問われているという事実、受講生が導入レベルにある事実を踏まえ、この際、さほど重要視しないこととする——を読み返しつつ、それらの文学的主题を再検証する作業を行う。その他の作家・作品については、担当者による解説で補うものとする。

【授業計画】

目安として、前半では植民地時代から南北戦争までの文学を、後半では南北戦争後から第2次大戦を経た今日に至るまでの文学を扱う予定でいる。主に次の人物・作品を取り上げる予定。

Jonathan Edwards
Thomas Jefferson
James Fenimore Cooper (The Pioneers)
Ralph Waldo Emerson (“Self-Reliance”)
Henry David Thoreau (Walden)
Emily Dickinson
Nathaniel Hawthorne (The Scarlet Letter)
Herman Melville (Moby-Dick)
Walt Whitman (Leaves of Grass)
Harriett Beecher Stowe (Uncle Tom’s Cabin)

Mark Twain (The Adventures of Huckleberry Finn)
Stephen Crane (Maggie: A Girl of the Streets)
Henry James (The Wings of the Dove)
Edith Wharton (The House of Mirth)
Scott Fitzgerald (The Great Gatsby)
Ernest Hemingway (The Old Man and the Sea)
William Faulkner (Absalom, Absalom!)
Ralph Waldo Ellison (The Invisible Man)
Thomas Pynchon (The Crying of Lot 49)

【成績評価の方法】

予習・復習にかかわる範囲で毎回始業時に小テストを行い、それをもって出席確認に代える。毎回、小テストをするので学期末にはテストは行わず、レポートを提出してもらおうつもりでいる。

【テキスト】

プリントを配布。

【参考文献】

授業時に指示する。

科 目 名			
アメリカ文化研究－ハリウッドと政治			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	藤 森 かよ子

【講義概要・学習目標】

このクラスでは、アメリカ合衆国を理解するために、かつアメリカ文化を大雑把に把握するために、アメリカの文化現象を以下の9つの様相から考察します。考察材料として、ハリウッド映画を利用します。

(1) 成功して金持ちにならなきゃだめ (2) アメリカ中産階級＝郊外族 (suburbia) は憂鬱 (3) 多民族多人種多文化は疲れる (4) ホラーとオカルト大好き (5) 強い女たち (6) ゲイこそ洗練、ゲイこそ文化 (7) いつも戦争 (8) サイエンス・フィクション大好き (9) カッコいい建国の理念と現実

映画を含むメディアは、どんなものでも、どの国のものでも、信用できません。メディアは政治的でありイデオロギカルなものです。所詮は、一般ピープル向けの洗脳道具でしかありません。鵜呑みにして信じる人間は愚劣なのです。騙されるほうが悪いのです。しかし、映画などのメディアは実に巧妙で強力で魅力的です。その洗脳の巧みさからは学ぶべきことが多くあります。

このクラスでは、アメリカ文化の様相とともに、映画を疑いながら分析すること (media literacy) も学びます。

<注意>映画に関するクラスだから、ぼんやり口を開けて映画を観ていればいいのだろう、お気楽なクラスだろうと期待する方は、受講しないで下さい。迷惑です。邪魔です。私語に遅刻に授業中のトイレ通いなどは、厳しく注意します。「叱られて傷つけられるのがいや」という無駄に無意味に繊細で幼稚な方も受講しないで下さい。

【授業計画】

以下の計画は、事情により多少の変更もあり得ます。

第1回：ハリウッド映画産業の歴史とメディアの政治性
 第2回－第4回：成功して金持ちにならなきゃだめ
 第5回－第6回：アメリカ中産階級＝郊外族 (suburbia) は憂鬱
 第7回－第10回：多民族多人種多文化は疲れる
 第11回－第13回：ホラーとオカルト大好き
 第14回－第16回：強い女たち
 第17回－第18回：ゲイこそ洗練、ゲイこそ文化
 第19回－第21回：いつも戦争
 第22回－第24回：サイエンス・フィクション大好き
 第25回－第27回：カッコいい建国の理念と現実
 第28回：まとめ

【成績評価の方法】

出席と毎回提出するコメントペーパー（出席票を兼ねます）と学期末試験から、総合的に評価します。

【テキスト】

なし。毎回、藤森作成のハンドアウトを配布します。

【参考文献】

以下の文献を読めば、一層に講義内容が理解できるでしょうし、また大いに楽しめるでしょう。

- (1) オットー・フリードリック著・柴田京子訳『ハリウッド帝国の興亡―夢工場の1940年代』（文藝春秋、1994）
- (2) ロバート・スクラー著・鈴木主税『アメリカ映画の文化史』上下巻（講談社、1995）
- (3) 鈴木透著『現代アメリカを観る―映画が描く超大国の鼓動』（丸善ライブラリ、1998）
- (4) 八尋春海著『映画で学ぶアメリカ文化』（スクリーン・プレイ、1999）

- (5) 北野圭介著『ハリウッド100年史講義―夢の工場から夢の王国へ』（平凡社、2001）
- (6) 大場正明＋編集部『Cine Lesson15 アメリカ映画主義―もうひとつのUSA』（フィルムアート社、2002）
- (7) 岸本裕子著『スクリーンに投影されるアメリカ』（メタ・ブレン2003）
- (8) 村山一郎編『映画史を学ぶクリティカル・ワーク』（フィルムアート社、2003）
- (9) カーラ・フレチャロウ著・ポップ・カルチャー研究会訳『映画でわかるカルチャー・スタディーズ』（フィルムアート社、2003）
- (10) 副島隆彦著『ハリウッド映画で読む世界覇権国アメリカ』上下巻（講談社+α文庫、2004）

科 目 名			
医学一般			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	郭 麗 月

【講義概要・学習目標】

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。
- 2 臨床医学ノ各分野ノ概要について理解させる。
- 3 医学的リハビリテーションノ概要について理解させる。
- 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。
- 5 公衆衛生の概要を理解させる。
- 6 保健医療対策の概要を理解させる。
- 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。
- 8 社会福祉士に必要な内容について理解させる。

【授業計画】

- 1 人体の構造・機能
- 2 一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要
- 3 医学的リハビリテーションの概要
- 4 現代社会と疾患
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) 神経・精神疾患
 - 4) 先天性疾患
 - 5) 難病
 - 6) その他
- 5 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 6 保健医療対策の現状
- 7 医事法事と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連帯のあり方

【成績評価の方法】

レポート、定期試験の成績で評価する。

【テキスト】

（福祉士養成講座編集委員会編）
『社会福祉士養成講座13「医学一般」』（中央法規）

【参考文献】

適時紹介する。

科 目 名			
イギリスの演劇－名場面を読み、観る			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	金 城 盛 紀

【講義概要・学習目標】

シェイクスピアから現代まで、イギリス演劇の代表作を取り上げて考えてみたい。「名場面」を原文で読み、テープで聴き、そして全体をビデオで観て、討論したい。

【授業計画】

シェイクスピア『ハムレット』、『お気に召すまま』、ゲイ『三文オペラ』、ショウー原作『マイ・フェア・レディ』、オズボーン『怒りを込めて振り返れ』など現代までの作品を対象にしたい。

【成績評価の方法】

平常点とレポートによる。

【テキスト】

プリントを用意する。

科 目 名			
イギリスの小説－名作はおもしろい			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	金 城 盛 紀

【講義概要・学習目標】

イギリス小説の名作のいくつか取り上げる。その「名場面」を原文で読み、プロの朗読をテープで聴き、全体をビデオで鑑賞し、討論する。異国の歴史に残る作品が、現在の日本で読んでも面白く意味があることが解かってもらえれば素晴らしい。

【授業計画】

スウィフト『ガリヴァー旅行記』、オースティン『自負と偏見』、ディケンズ『デイヴィッド・コパーフィールド』、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』、ハーディ『テス』、モーム『人間の絆』、『ロレンス』、『チャタレイ夫人の恋人』など、代表作を取り上げたいが、受講生の反応をみて調整する。

【成績評価の方法】

平常点とレポート。

【テキスト】

プリントを用意する。

科 目 名			
イギリス文学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	日 下 隆 平

【講義概要・学習目標】

この講義は、アイルランドを含めてイギリスで書かれた文学作品について学ぶことを目的にしています。各時代で書かれた詩、小説、演劇そして随筆などを可能な限り実際に原文で読むことによって、当時のイギリスの時代精神、文化、さらには社会背景などをより一層ふかく学んでいくことができるはず。とはいえ、一国の長い歴史を14回程度の授業でまとめることは至難の業であることから、各時代で特定の作家に的を絞って作品を講読してゆくつもりです。取り上げる時代と作家は以下の通りです。

【授業計画】

17世紀前半	William Shakespeareの『リア王』
18世紀前半	Jonathan Swift, 『ガリバー旅行記』
18世紀後半	廃墟趣味とゴシック小説
19世紀前半	ロマン主義 S. T. Coleridge 『老水夫の歌』
19世紀後半	ヴィクトリア朝時代－都市と文学 脱植民地の文学:アイルランド
20世紀	Thomas Sterns Eliot, The Waste Land

などを読む予定です。また作品全体を知るためにビデオなどを活用する予定。

【成績評価の方法】

試験による。

【テキスト】

川崎寿彦著『イギリス文学史』、成美堂。

【参考文献】

毎回授業の資料としてハンドアウトを配布します。(欠席による再配布はしませんので注意してください。)

科 目 名			
イタリア語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 03	通期	2単位	啜 絵 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式を多くとり入れる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使い、イタリア語に親しんでほしい。

【授業計画】

<春学期>

1. イタリア語の発音
2. 規則動詞・名詞・形容詞と性数の概念
3. 疑問詞との組み合わせによる会話表現

<秋学期>

1. 補助動詞・不規則動詞・代名詞
2. 過去の表現（近過去・半過去）
3. さまざまな日常会話表現
4. 初歩的な読解（2）

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。年に数回の筆記試験や口頭試問を授業中に行う。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【テキスト】

一之瀬俊和著 朝日出版社『Nuovo A Zonzoイタリア語そぞろ歩きcd付き』（定価2100円）。また、次の辞書を必ず授業に持つてくること。小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（定価3000円）または、小学館『伊和中辞典』（定価6600円）でもよい。

【参考文献】

武田 好・横山 千里著『Andiamo in Italia!（アンディアーモ・イン・イタリア）』

科 目 名			
イタリア語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	和 栗 珠 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と並行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

なお、この授業はイタリア語Ib-02と同じテキストを用い、一貫して進められる。

【授業計画】

【春学期】

1. イタリア語の発音、性数の概念
2. 規則動詞、名詞、形容詞
3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習

【秋学期】

1. 不規則動詞、補助動詞
2. 目的語人称代名詞
3. 過去の表現1：近過去
4. 再帰動詞
5. 過去の表現2：半過去

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に4回（イタリア語Ib-02と合わせて）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【テキスト】

講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）

教科書の他に辞書を必ず授業に持つてくること。郡史郎・池田 廉『ポケット プログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めますが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科 目 名			
イタリア語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	暁 絵 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言葉だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式を多くとり入れる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と常に並行して向上するように、徹底した反復練習を行う。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使い、イタリア語に親しんでほしい。

【授業計画】

<春学期>

1. イタリア語の発音
2. 規則動詞・名詞・形容詞と性数の概念
3. 疑問詞との組み合わせによる会話表現

<秋学期>

1. 補助動詞・不規則動詞・代名詞
2. 過去の表現（近過去・半過去）
3. さまざまな日常会話表現
4. 初歩的な読解（2）

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。年に数回の筆記試験や口頭試問を授業中に行う。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【テキスト】

一之瀬俊和著 朝日出版社『Nuovo A Zonzoイタリア語そぞろ歩きcd付き』（定価2100円）。また、次の辞書を必ず授業に持ってくる。小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（定価3000円）または、小学館『伊和中辞典』（定価6600円）でもよい。

【参考文献】

武田 好・横山 千里著『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』

科 目 名			
イタリア語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	和 栗 珠 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々にはなじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と並行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

なお、この授業はイタリア語Ia-02と同じテキストを用い、一貫して進められる。

【授業計画】

【春学期】

1. イタリア語の発音、性数の概念
2. 規則動詞、名詞、形容詞
3. 疑問詞との組み合わせによる作文・会話練習

【秋学期】

1. 不規則動詞、補助動詞
2. 目的語人称代名詞
3. 過去の表現 1：近過去
4. 再帰動詞
5. 過去の表現 2：半過去

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に4回（イタリア語Ia-02と合わせて）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【テキスト】

講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）

教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケット プログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めますが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科 目 名			
イタリア語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	2単位	和 栗 珠 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と並行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

なお、この授業はイタリア語Ia03の授業と同じテキストを用い、これと連携して行なわれる。

【授業計画】

【春学期】

1. イタリア語の発音、名詞の性と数
2. 基本的なあいさつと規則動詞
3. 基本的な不規則動詞
4. 冠詞・目的語代名詞

【秋学期】

1. 近過去
2. 再帰動詞
3. 半過去
4. 未来
5. 命令法
6. 条件法

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に2回（イタリア語Ia03と合わせると年に4回）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【テキスト】

一ノ瀬俊一著『Nuovo a zozzo（新 ア・ゾゾ - イタリア語そぞろ歩き-）』（朝日出版社）

教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケット プログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科 目 名			
イタリア語 II a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	和 栗 珠 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語1で学習した基礎を発展させ、新しい文法事項や語彙・表現を学びながら、イタリア語の能力を高めることを目標とする。文法力がコミュニケーション力と結びついて伸びるよう、授業では徹底的な反復と実践的な会話練習を重視する。したがって、受講生には、積極的な授業参加が求められる。また、語彙力を高めるために、毎回小テストを実施する。

【授業計画】

【春学期】

1. 基本事項の復習
2. 命令法
3. 未来形
4. 条件法

【秋学期】

1. 受動態と非人称構文
2. 分詞構文とジェルンディオ構文
3. さまざまな完了時制
4. 仮定表現

【成績評価の方法】

毎回の小テストの得点、出席度、授業における積極性・理解度を中心とする平常点を重視する。また、各期末1回ずつの筆記試験と適宜のオーラルテストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【テキスト】

小テスト用として、『イラストいっぱい イタリア単語集』（バルバラ・ピザーニ/マルコ・ピオンディ著、白水社）を用いる。

文法用の教材は、プリントを使用する。

教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくる。郡史郎・池田廉『ポケット プログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科 目 名			
イタリア語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2単位	暁 絵 里

【講義概要・学習目標】

イタリア語Iで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがIIでの課題である。実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Iと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文書を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。文法等の教科書は使用せず、プリントを活用して、多面的にイタリア語に取り組んでもらう。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【授業計画】

<春学期> イタリア語の構造のまとめ

1. イタリア語Iの復讐と実践練習

<秋学期> 表現力と実践的運用力の充実

1. 様々な過去時制
2. 演習

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に数回の筆記試験と口頭試問を授業中に行い、適宜課題の提出も求める。これらの材料から受講生各々の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【テキスト】

教科書は使用しないが、次のいずれかの辞書を必ず授業に持ってくる。小学館『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（定価3000円）小学館『伊和中辞典』（定価6600円）

科 目 名			
イタリア語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	2単位	鳥 居 正 雄

【講義概要・学習目標】

IIを履修する殆どの諸君が、Iの内容がまったく身につけていないので動詞の変化を中心に品詞別の練習問題を使った演習を、プリントを使ってみっちりやります。会話も基本的には作文なので、文章が一通り作れるようになることを目標にします。語学はすべて継続することが大事なので毎時間必ず出席すること、毎回の予習、復習が最低条件です。学生は授業に出席するのが当然なので、出席することと単位とは直接には結びつきません。この授業では、演習をやって初めて単位がどうこうという話になります。当大学では、授業開始時間に出席している学生は3割程度なので、それ以外の欠席や遅刻が目にするような諸君には単位は出ないと考えてください。aクラスだけ出席してbクラスは出席しないとか、再履修だからという理由で出席しない怠け者の諸君や、授業中に携帯で遊んだり寝たりするような集中力の無い諸君や、常習的に遅刻する諸君には単位は出せません。特に、授業中に寝る学生は、熱心に授業に参加している諸君や、授業をしている私の意欲を殺ぐという点からも、絶対に単位はもらえないと考えてください。

【授業計画】

『前期』

単元毎の文法説明を行います。必要に応じてプリントを使います各課ごとに練習問題をして理解を完全なものにします。動詞の変化を徹底的に反復して覚えてもらいます。練習問題の文章を通してイタリア的な感性に対する理解を養います。

『後期』

日常的な表現が身につくようプリントを使った演習を徹底的にやります。ヒアリングの機会を増やして発音とアクセントの正確さを高めます。それらを通してイタリア的な物の考え方に対する理解を深めてもらいます。

【成績評価の方法】

一月に一回ぐらい渡す宿題の練習問題の点数と、期末のテスト、それに授業中の問題に対する答えの出来ぐあいを総合して評価しますが、特に授業中にやる練習問題をやる回数と答えの出来具合に重点をおいて評価します。

【テキスト】

プリントを使います。演習をするので、辞書は本棚に飾って置かないで、毎時間必ず持って来ること。

【参考文献】

どのような分野でも良いので、イタリアに関する自分の関心のある分野の本を図書館や書店で出来るだけたくさん読むこと。

科 目 名			
イタリア語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2単位	鳥 居 正 雄

【講義概要・学習目標】

Ⅱを履修する殆どの諸君が、Ⅰの内容がまったく身につけていないので動詞の変化を中心に品詞別の練習問題を使った演習を、プリントを使ってみっちりやります。会話も基本的には作文なので、文章が一通り作れるようになることを目標にします。語学はすべて継続することが大事なので毎時間必ず出席することと、毎回の予習、復習が最低条件です。学生は授業に出席するのが当然なので、出席することと単位とは直接には結びつきません。この授業では、演習をやって初めて単位がどうこうという話になります。当大学では、授業開始時間に出席している学生は3割程度なので、それ以外の欠席や遅刻が目にするような諸君には単位は出ないと考えてください。aクラスだけ出席してbクラスは出席しないとか、再履修だからという理由で出席しない怠け者の諸君や、授業中に携帯で遊んだり寝たりするような集中力の無い諸君や、常習的に遅刻する諸君には単位は出せません。特に、授業中に寝る学生は、熱心に授業に参加している諸君や、授業をしている私の意欲を殺ぐという点からも、絶対に単位はもらえないと考えてください。

【授業計画】

『前期』

単元毎の文法説明を行います。必要に応じてプリントを使います各課ごとに練習問題をして理解を完全なものにします。動詞の変化を徹底的に反復して覚えてもらいます。練習問題の文章を通してイタリア的な感性に対する理解を養います。

『後期』

日常的な表現が身につくようプリントを使った演習を徹底的にやります。ヒアリングの機会を増やして発音とアクセントの正確さを高めます。それらを通してイタリア的な物の考え方に対する理解を深めてもらいます。

【成績評価の方法】

一月に一回ぐらい渡す宿題の練習問題の点数と、期末のテスト、それに授業中の問題に対する答えの出来ぐあいを総合して評価しますが、特に授業中にやる練習問題をやる回数と答えの出来具合に重点をおいて評価します。

【テキスト】

プリントを使います。演習をするので、辞書は本棚に飾って置かないで、毎時間必ず持って来ること。

【参考文献】

どのような分野でも良いので、イタリアに関する自分の関心のある分野の本を図書館や書店で出来るだけたくさん読むこと。

科 目 名			
イタリア語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02 03	通期	2単位	米 山 喜 晟

【講義概要・学習目標】

一年生で学んだイタリア語の知識を土台にして、イタリア語の文法を最後まで仕上げるのがこの授業の目的である。やはりせっかく大学で学んでいるのだから、イタリア語文法の全体像が見えるところまで、また一応イタリア語が使えるところまで、授業を進めたい。

【授業計画】

前半で教科書の11課までを終える。そこまでは一年生で学んだことの復習が大半の時間を占めるであろう。後半で、それ以後の部分、最後の21課まで進み、イタリア語文法を完了する。とにかく毎週の範囲の復習、予習を怠らないこと。一日最低一時間以上はイタリア語を声を張り上げて読み、例文と動詞の変化を暗記すること。全文を暗記すればイタリアで生活するのに困らない。一応イタリア語ができるはずだ。

【成績評価の方法】

2回の試験の成績の平均によって評価する。平均40点以上を取れば合格。60点以上はA。ボーダーライン上の点数は、出席点を加味する。

【テキスト】

S.Kobayashi:Nuove Ventun Lezioni d' Italiano

【参考文献】

坂本鉄男著『イタリア語の入門』（白水社）その他一応きちんと叙述されているものなら何でも良いから、まともなイタリア語の文法書を一部常に手元において、授業を理解するための参考になると同時に授業の進行に併せて読み進み、期末までに読み終えることが望ましい。そうすれば、さらにはっきりとしたイタリア語文法の全体像が把握できて、諸君の頭脳の中で、一生の財産となって残るであろう。

科 目 名			
一般経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	富 澤 修 身

【講義概要・学習目標】

長い混迷状態にある日本経済、通貨経済危機を経ても勢いを感じさせるアジア経済、情報技術革命を手がかりに成長を続けるアメリカ経済、そしてさまざまな実験を行い社会的リーダーシップを示す西欧諸国という具合に、現代経済はさまざまな国・地域から構成されている。世界と日本の21世紀を考えると、来し方を振り返ることが必要となる。歴史は、現代と未来のあり方を構想する際の手がかりを与えてくれるからである。講義では、イギリス、アメリカ、日本の歴史を素材にして、18世紀の経済史、19世紀の経済史、20世紀の経済史について論じる。

【授業計画】

1. はじめに
2. 産業革命
 2. 1. イギリス産業革命
 2. 2. 後発国・地域の工業化
3. 18世紀の経済史
 3. 1. 問屋制経営
 3. 2. 協業
 3. 3. マニュファクチュア
4. 19世紀の経済史
 4. 1. 機械制大工業
 4. 2. 鉄道経営
5. 20世紀の経済史
 5. 1. 大企業の登場
 5. 2. 1930年代ニューディール
 5. 3. 戦後経済史

【成績評価の方法】

定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。受講者が少ない場合は変更の可能性有り。

【テキスト】

教科書は指定しない。プリントを配布する。

科 目 名			
一般経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	前 田 治 郎

【講義概要・学習目標】

人類史において、人間はその自然変革能力を高めてきた。とりわけ資本主義の成立以後、この発展は加速度を増し、今日の高い生産力にまで到達してきた。しかし他方、依然として地球上には飢餓人口が存在し、環境問題は猶予ならないほどに深刻化し、また人殺しのための兵器が科学技術の最先端を代表しているといった現実も忘れるべきではない。この講義の前半では、資本主義を相対化するために、資本主義も含む通史的な経済史の発展傾向を考え、後半では、資本主義そのものの発展を理解するのに必要な基礎的諸概念を取り上げることとする。それらを通じて考えたいことは、「資本主義とは何か？」ということである。

【授業計画】

1. 前半には、経済史の発展を以下の3つの側面から取り上げる。すなわち、(a) 生産力の発展とは何か、(b) 経済システムの展開、(c) 国家とグローバリゼーション。
2. 後半には、資本主義発展を理解するための基礎的諸概念を取り上げる。具体的には、産業革命、先進国と後進国、経済恐慌、独占資本主義、国際通貨体制、社会主義、福祉国家、グローバリゼーションなどである。

【成績評価の方法】

秋学期末試験と授業中に数回行う予定の小テスト

科 目 名			
異文化間コミュニケーション論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	遠 山 淳

【講義概要・学習目標】

講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーションなどについて講義し、文明と文化、普遍文化と個別文化との関係、異文化理解、文化変容、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。また英語・日本語教員志望者に配慮し、英米人のコミュニケーション特性についても講義する。

情報は文化を生成し、文化は人間に対して常に規範的に係わる。異文化理解も自文化からの自文化的な「理解」である。さて諸君はどこまで自文化を越えられるだろうか。

【授業計画】

1. 異文化コミュニケーション論とは
2. 「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論
3. 自文化中心主義と文化相対主義
4. コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型
5. 言語と文化：エティックとイーミック
6. 非言語コミュニケーション
7. コミュニケーション能力と言語能力
8. コミュニケーションの文化型：片立型文化と両立型文化
- 9-10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ
11. 「理解」法の文化比較：「わかる」こと、言行の一致と乖離
12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界

【成績評価の方法】

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

【テキスト】

遠山共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998

【参考文献】

遠山他著・石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993
吉田暁編・石井・久米他編『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987
祖父江孝男『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1992
遠山他編著『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣、2001

他は授業中に紹介する。

科 目 名			
意味論・語用論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	林 宅 男

【講義概要・学習目標】

この授業ではことばの持つ意味の諸相について学ぶ。前半は語や文の概念について研究する「意味論」を、後半は特定の場面や文脈での意図の意味を研究する「語用論」を扱う。意味論では、近年の認知科学の発展と平行して最近注目を浴びている「認知意味論」に基づき、言語が脳の精神作用一般の働きとどのように密接に関係し、その意味が主観的な自己の経験や知識とどのように繋がっているかを学ぶ。語用論では、我々がことばを使ってコミュニケーションをする場合にどのように意図（意味）を表現するのか、その表現の解釈の原理やメカニズムはどのようなものであるか、更に、ことばの意味は社会的場面やイデオロギーとどのように関わっているのか、などについて学ぶ（講義は英語と日本語で行う）。

【授業計画】

- | | |
|-------------------|--------------------|
| (1) 認知意味論の意味観 | (7) 言語形式の談話レベルでの分析 |
| (2) 範疇とプロトタイプ | |
| (3) イメージスキーマ | (8) 発話における意図と解釈 |
| (4) 意味の拡張 | (9) 言語使用の認知的研究 |
| (5) 認知的文法・構文研究 | (10) 社会的プラグマティックス |
| (6) プラグマティックスの意味観 | |

【成績評価の方法】

出席、クイズ、課題、試験などを総合的に評価する。

【テキスト】

1. 松本曜（編）「認知意味論」シリーズ認知言語学入門 第3巻 大修館書店
2. 高原脩・林宅男・林礼子（著）「プラグマティックスの展開」勁草書房
3. プリント教材

【参考文献】

1. 辻幸夫（編）「認知言語学への招待」シリーズ認知言語学入門 第1巻 大修館書店
2. Jenny Thomas, Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics, London: Longman (日本語版: ジェニー・トーマス (著) 田中典子他 (訳) 「語用論入門」)

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
医療保健福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	小 西 加保留

【講義概要・学習目標】

(春学期)
医療の変遷、保健医療を取り巻く制度・施策などの現状の理解の上に、ソーシャルワーク実践の理念や意義、欧米および日本における歴史の変遷、業務の概要について学ぶ。また医療ソーシャルワーク実践の倫理と価値に関わる課題を患者の権利に繋げて理解する。

(秋学期)
保健医療ソーシャルワークの対象となる難病、救急、小児、ターミナルなどの領域別に、その生活課題とソーシャルワーク実践の内容を学ぶ。また近年の医療政策の流れの中で求められる、退院援助業務の展開、チーム医療や組織に関わる課題、電子カルテやクリニカル・パスへの対応などについて理解する。

【授業計画】

- (春学期)
1. オリエンテーション (授業の進め方、医療、保健、福祉の関係についての枠組み)
 2. 医療を取り巻く制度施策等の状況について
 3. 医療の変遷と福祉
 4. 医療ソーシャルワークの歴史 (イギリス)
 5. 医療ソーシャルワークの歴史 (イギリス)
 6. 医療ソーシャルワークの歴史 (アメリカ)
 7. 医療ソーシャルワークの歴史 (日本)
 8. 医療ソーシャルワークの業務指針 (1)
 9. 医療ソーシャルワークの業務指針 (2)
 10. 患者の権利
 11. 医療における倫理、価値
 12. ハンセン病に学ぶ
 13. HIV感染症に学ぶ
 14. まとめ
- (秋学期)
1. 退院援助
 2. 病院機能別の課題
 3. 救急医療とソーシャルワーク
 4. 障害受容
 5. ALSと生活障害
 6. 小児の病気とソーシャルワーク
 7. HIV感染症とソーシャルワーク
 8. ホームレスとソーシャルワーク
 9. 地域生活支援 (VTR)
 10. 組織とソーシャルワーク (1)
 11. チーム医療
 12. 電子カルテ/クリニカル・パス
 13. 組織とソーシャルワーク (2) (ゲストスピーカー)
 14. 医療制度
(以上予定を含む)

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、学期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に適宜配布する。

【参考文献】

- ・日本医療社会事業協会/日本社会福祉士会編『保健医療ソーシャルワーク実践Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ』(中央法規出版)2004
- ・日本医療社会事業協会編『保健医療ソーシャルワーク原論改訂版』(相川書房)2004
- ・杉本照子監修『医療におけるソーシャルワークの展開—その原則と実践—』(相川書房)2001
- ・日本医療ソーシャルワーク研究会『実践的医療ソーシャルワーク論』(金原出版)2004

科 目 名			
インドネシア語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	小 池 誠

【講義概要・学習目標】

この授業は、基礎的なインドネシア語の習得を目的としている。毎回の授業では、できるかぎりインドネシア語を聞き、話すことによって、インドネシア語の表現に受講者が慣れるようにしたい。また、インドネシア語の発音と文法にはあまり細かくこだわることなく、日常のさまざまな場面で必要とされる、もっとも基礎的な言葉と表現を学んでいきたい。

授業のなかで、インドネシアの音楽を聞いたり、またテレビ番組を観たりすることで、インドネシアの言語と文化をより身近に感じられるようにしたい。

【授業計画】

日常のあいさつ、自己紹介からはじめて、お金(ルピア)の数え方、旅先で使う買い物や食事などの表現まで、毎回の授業で学んでいく。

【成績評価の方法】

出席と授業中の学習態度、課題への取り組み、および各学期末に実施する試験(筆記と口答試験)の成績を総合的に評価する。

【テキスト】

武部洋子『旅の指さし会話帳② インドネシア』情報センター出版局
日本放送協会『アジア語楽紀行 バリ・旅するインドネシア語』日本放送出版協会

【参考文献】

授業の中で必要に応じて指示する。

科 目 名			
インドネシア語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	ティティス ニティスワリ Titis Nitiswari

【講義概要・学習目標】

この授業は基礎的なインドネシア語の習得を目的にしている。授業内容は、発音、語彙、文法、そして簡単な会話や作文を含んでいる。具体的には、プリントを使用し、ゆっくり丁寧な学習を行いたい。インドネシア語は、比較的学習しやすい言語である。そのため、授業は複雑ではなく、大量の予習復習も必要ではない。ただ、授業進行が円滑になるように、できるだけ継続して出席して常に授業内容を把握していることが望まれている。

【授業計画】

プリントを一年かけてゆっくり丁寧に学習したい。
前期は、主に発音、語彙、簡単な文法や構文の習得を目指す。
後期は、より複雑な文法とその運用も学んでゆく。大量の予習復習は必要ないが、毎回の授業で練習に積極的に参加して頂きたい。

【成績評価の方法】

出席、授業参加の態度、各期末の書き取りなどの総合評価。なかでも、継続して出席して、積極的に授業中の練習に参加することを最も重視したい。

【テキスト】

毎回プリント配布

科 目 名			
インドネシア語 II a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	深 見 純 生

【講義概要・学習目標】

1年次の学習を基礎にして、インドネシア語を読む力をつける。
1年後には、辞書の助けを借りつつ、インドネシア語でインドネシアの社会や文化を自分で学ぶことができるようになることを目指す。講読テキストとしてはインドネシアの社会や文化を紹介するものを取り上げる。
インドネシアの社会と文化を理解する助けとして、また身近に感じるために、映像資料も使っていきたい。
あわせて、自分を表現することを中心に、作文にも力を入れる。
徐々に接辞を使い、また接続詞と関係代名詞を使って、長い文章が書けるようになってほしい。

【授業計画】

1. 辞書の引き方＝接頭辞の外し方（復習）
2. 講読＝INDONESIA, JAKARTA, BALI, dll.
3. 接辞の機能
4. 作文＝自己表現を中心に
5. 映像資料によるインドネシア理解

【成績評価の方法】

毎回出席することが前提である。平常点と期末テストの成績を総合して評価する。

【テキスト】

特定の教科書は使わない。講読テキストは適宜配布する。辞書については授業中に説明紹介する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科 目 名			
インドネシア語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2単位	ティティス ニティスワリ Titis Nitiswari

【講義概要・学習目標】

二年目のインドネシア語の学習で、この授業では、主に実践的な運用能力の向上を目指したい。具体的には、プリントを使用しながら、そこで得られた知識が実際にはなせたり、聞き取れたりできるように練習したい。大量の予習復習を課すことはないが、二年目に入るために、単語や構文も記憶しておくことは大切になってくる。それに役に立つような授業中での練習を試みたい。

【授業計画】

前期では、主に、一年目で学習した基本的な構文の復習と補強を行いたい。具体的には、名詞文、形容詞文、簡単な動詞文の復習である。この練習のなかでは、日常的に良く使われる単語を紹介して、実践的な知識を補強したい。

後期では、主に、より語法的、文法的な項目の練習を増やしてゆきたい。

【成績評価の方法】

出席、授業参加の態度、各期末聞き取りの総合評価、授業中に積極的に練習に参加することを最も重視したい。

【テキスト】

毎回プリント配布

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	2単位	村 瀬 寿 代

【講義概要・学習目標】

TOEICのスコアアップを目指すとともに、英語力を上げるための講座である。公開テストがリニューアルされるにともない、益々コミュニケーション能力が問われることが予想される。それだけに、授業に出席するだけでは、高スコアは到底望めない。毎回の自習は必ず必要となる。前半は従来のテストの対応に力を入れ、後半には新テストを見据えて授業を行う。講義形式ではなく、学生参加型の授業とする。

【授業計画】

前半はTOEICによく出題される文法や表現に焦点を当て、英語を聞いて即座に判断できる能力を養う。後半は新TOEICの紹介も含め、問題量をさらに増やし、難解な問題にも対処できるようにすることで、スコアアップを目指す。語彙テストは毎回実施する。

【成績評価の方法】

語彙テスト、公開テスト、IPテストのスコアで評価を行う。

【テキスト】

開講時に指示する。テキスト以外にもハンドアウトを配布する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

【備考】

TOEIC対策講座

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	通期	2単位	ウォーレン デッカー Warren Decker

【講義概要・学習目標】

Contemporary Spoken English

This class is for students of English who want to improve their fluency and practice speaking and listening. We will focus on contemporary spoken English, including slang and idioms. I will use English movies, television, shows, music, and other resources in class. You will also have many chances to get to know your classmates and communicate with each other in English.

【授業計画】

-Speaking and listening exercises aimed at improving English fluency
-Communication
-Movies and TV
-Music

【成績評価の方法】

You will be assessed on your level of participation in class and your efforts to improve your English fluency. (There will be no test.)

【テキスト】

I will prepare materials as needed.

【備考】

会話

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	2単位	テレンス オブライエン Terence J. O'Brien

【講義概要・学習目標】

During the year we will examine different parts of the culture of Britain and also Japan and the USA. I will begin each new topic with a lecture and I expect the students to make comments on the main points and to also explain and share their own cultures with the group.

The main language will be English.

【授業計画】

In the spring semester we will look at buildings, for example castles, churches, and different kinds of houses. We will examine why and how these buildings were made. We will not only look at the aspect of hardware but also look at the software aspects and see how they have been used by people.

In the autumn semester we will look closely at the people and their societies. In particular we will follow how the shift from an agricultural society to an industrial society changed the lives of people. Also we will see how modern youth developed its own culture by looking at fashion, music and art.

【成績評価の方法】

Grades will be calculated from attendance, homework and tests.

【テキスト】

There is no textbook, but I will give students many handouts.

【備考】

比較文化
英語による授業です

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	2単位	デビッド バンハム David T. VanHam

【講義概要・学習目標】

Spring Semester 2006

Post-war Japanese Film and Culture: Japanese Films Since 1952
What is the connection between film and culture? While there are many limitations in considering film an accurate reflection of the society that produced it, there are at least some cultural insights to be gained from viewing popular films of a particular society. This class will try to discover what, if any, insights into Japan and Japanese society can be gathered from popular Japanese films. We will briefly examine Japanese film history along with a general discussion of what preconceptions we each bring in our understanding of Japanese life and culture. Then our class will begin viewing and discussing a variety of films from several periods of Japanese film history beginning with films made after the end of the American Occupation.

Fall Semester (2006)

Post-war Japanese Film and Culture: Recent Japanese Film
At this point we will have seen and considered several earlier films made up until the mid- 1970 s. In this semester we will continue our discovery of Japanese film and culture by examining films made in the last twenty years or so. In what way do contemporary Japanese film makers differ from those considered earlier? Is their vision more relevant to contemporary viewers? We will examine these and other issues are we see what the modern "masters" have achieved through their view of Japanese life and culture.

【授業計画】

SPRING 2006

A brief survey of Japanese film history
My Japan: How I see Japan now and where those ideas came from.

Japanese life: myth and reality.
Japanese films and discussion Spring Semester (a series of films to be viewed and discussed)

General discussion and student conclusions on Japanese film and culture

FALL 2006

The modern Japanese film
Japanese film and discussion Spring Semester (a series of films to be viewed and discussed)

New looks or old ideas: The influence of past works on present and future film visions.

General discussion and student conclusions on Japanese film and culture

【成績評価の方法】

Students will keep a journal recording their impressions, notes, and comments regarding the class and specific films viewed. This journal, along with reading assignments, in-class discussion and a final end of class paper (approximately 600 - 1200 words) will comprise the final grade.

【テキスト】

Texts Various in-class materials as handouts

【参考文献】

References: A Hundred Years of Japanese Film: Donald Richie
The Midnight Eye Guide to New Japanese Film: Hideo Nakata

【備考】

Completing the Class:

Students will be expected to attend all classes and participate fully in discussions, workshops, etc..

※日本事情入門 英語による授業です

科 目 名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	2単位	ウォーレン デッカー Warren Decker

【講義概要・学習目標】

This class is for exchanges students and Japanese students interested in communicating with exchange students. We will talk in English about Japanese culture and our lives in Japan. Please be prepared to speak and write about your experiences and opinions. We will study English as needed, but mostly we will just communicate with each other, so this class will be best for students who already speak English reasonably well.

【授業計画】

During class we will discuss various topics related to Japanese culture and our lives in Japan. I will also ask you to keep a journal and turn it in regularly so we can write back and forth to each other.

【成績評価の方法】

-Attendance
-Participation in class
-Journal entries
(There will be no test.)

【テキスト】

I will prepare materials as needed.

【備考】

日本事情
英語による授業です

科 目 名			
英語V (上級)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	2単位	キャメロン ロムニー Cameron Romney

【講義概要・学習目標】

This course is intended for exchange students studying at Momoyama, but Japanese students with a high level of English are welcome. The class will explore current topics in Japanese society, culture (both traditional and popular), and business as reported in the English media. Students will explore these topics and relate them to their experiences as non-Japanese living in Japan.

【授業計画】

The instructor will chose topics and articles from the media and students will be expected to read and thoroughly understand them before coming to class. In class, the instructor will lead the discussion of the topic. Students will be expected to attend and actively participate in every class.

【成績評価の方法】

Students will be primarily assessed on their preparedness and participation in class. Furthermore, students will be expected to write a short (1000 word) "position" paper each semester and make a short presentation to the class supporting that position. There will be no exam.

【テキスト】

There will be no text for the class. Students will be given handouts as prepared by the instructor.

【参考文献】

Non-Anglophone students are encouraged to have bilingual English/ (their) native language dictionary.

【備考】

日本事情
英語による授業です

科 目 名			
英語科教育法 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	島 田 勝 正

【講義概要・学習目標】

英語教師志望者を対象とする。英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、指導課程論（シラバス論、授業計画）、指導方法論、指導技術論（4技能、文法、語彙）教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。

単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その中で受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探求することになる。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。

本講義の主たる目的は、中学校、高等学校、大学等で経験した英語教育や英語学習を基盤にして作り上げた「思い込み (belief)」から、解放し、望ましい英語授業のあり方を自己評価、自己点検ができる視点、観点を提供する事にある。

【授業計画】

<前半>

1. ガイダンス
2. 教授・学習・評価（教授の役割）
3. 第二言語習得論1（習慣形成理論と創造的構築）
4. 第二言語習得論2（学習転移）
5. 誤答分析
6. 第二言語習得論3（インプット仮説）
7. TPR
8. 文法指導1（意識化活動）
9. 文法指導2（教材作成）
10. 誤答訂正
11. 目標論1（コミュニケーション能力）
12. 目標論2（学習指導要領）
13. コミュニケーション方略
14. 小学校英語
15. 定期試験

<後半>

1. コミュニカティブアプローチ1（機能シラバス）
2. コミュニカティブアプローチ2（文機能分析）
3. コミュニカティブアプローチ3（教授法）
4. スピーキング（教材評価）
5. リスニング（背景知識の活性化）
6. リーディング（発問の種類と方法）
7. ライティング（自己表現、英文訂正）
8. 語彙（記憶術）
9. 授業案作成、授業観察、授業分析
10. 観点別評価と評定（規準と基準）
11. テスティング1（妥当性、信頼性、実用性）
12. テスティング2（テスト項目改善）
13. テスティング3（技能判断、項目分析）
14. 定期試験

【成績評価の方法】

- (1) 課題提出36%
- (2) レポート24%
- (3) 定期試験40%

【テキスト】

未定

【参考文献】

1. 白畑他（著）2000『英語教育用語辞典』大修館書店
2. Richards, J., and Schmidt, R. (eds.) 2002. Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Third Edition. Longman.
3. 青木（編）1990, 1994『英語授業実例事典 I, II』大修館書店
4. 青木（編著）1990『英語授業の組立て』開隆堂
5. 山田、望月（編）1996『私の英語授業』大修館書店

【備考】

各学期、2回を越えて欠席した場合、出席不足（X:無評価）として処理する。

科 目 名			
英語科教育法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	島 田 勝 正

【講義概要・学習目標】

「英語科教育法Ⅰ」で得た知見を基盤に、英語科の指導と評価の演習を行う。したがって、本講義は、英語教員養成カリキュラム上、「英語科教育法Ⅰ」と「教育実習Ⅰ,Ⅱ」との橋渡しとして位置づけられる。

具体的には、授業提案（授業案作成－授業提案－授業観察－授業分析－授業案改善－授業再提案の過程を経る）を通して、英語授業の構成能力を錬磨する。また、テスト作成（妥当性、信頼性の高いテストの作成実習）や、実技テストの評定者訓練を通して、評価規準、評価基準についての理解を深める。

すべての授業は、「教育実習」を射程に入れたワークショップである。

【授業計画】

授業の前半を「英語科教育法Ⅰ」の復習に当てる。

授業の後半を受講生の「授業提案」に当てる。

春学期は提案する技能を指定する。秋学期は提案する技能とテーマを指定する。

【成績評価の方法】

- (1) 授業参加42%
- (2) 授業提案30%
- (3) レポート and/or テスト28%

【テキスト】

未定

【参考文献】

- 1. 白畑他（著）2000『英語教育用語辞典』大修館書店
- 2. Richards, J., and Schmidt, R. (eds.) 2002. Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Third Edition. Longman.
- 3. 青木（編）1990, 1994『英語授業実例事典Ⅰ,Ⅱ』大修館書店
- 4. 青木（編著）1990『英語授業の組立て』開隆堂
- 5. 山田、望月（編）1996『私の英語授業』大修館書店

【備考】

原則として「英語科教育法Ⅱ」は「英語科教育法Ⅰ」を修得した後で履修すること。

各学期、2回を越えて欠席した場合、出席不足（X:無評価）として処理する。

科 目 名			
英語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg

【講義概要・学習目標】

「英語学」とは、英語を対象とする言語学、つまり言語の科学である。科学だからこそ、言語学の目的は、言語現象を記述するだけではなく、その現象を説明することにある。したがって、この授業の目的は、英語に関する事実をたくさん覚えさせることでは決していない。むしろ、英語を人間言語の一例として取り上げ、言語学という科学の研究対象、基礎概念、それに研究方法を（ある程度）把握してもらうことを目指す。英語をもちろん中心とするが、日本語その他の言語のデータも紹介して、場合によっては宿題や試験問題の対象とする。

受講生は、この授業で十分な成果をあげることができれば、次の目的を達成することになる：

- ・人間言語とりわけ英語を科学研究の対象とする方法や特徴を（ある程度）理解する。
- ・英語学の下位分野（音声学、形態論、統語論など）の基礎知識を得る。
- ・英語の特徴をもう少し理解する。

【授業計画】

次のテーマについて、この順番に、話したい。

- 1) 科学としての言語学：記述と説明、仮説、証拠、反証、予測など
- 2) 音の構造（音声学・音韻論）：音の調音方法、音の記述、発音の変化、その変化を決める規則
- 3) 語彙の構造（形態論）：派生と屈折、語の構造
- 4) 文の構造（統語論）：文の分析方法、範疇、構成素、項構造、など
- 5) 発話の解釈（語用論）：文の意味／話者の意味、会話の規則、丁寧表現の規則など

【成績評価の方法】

小テストを頻繁に（ほぼ毎週）行なうし、学期末試験も行なう。小テストは成績の約7割を占めるので（学期末試験は残る3割）、受験しない限り単位をとれない。小テストの大半を受験しない場合、学期末試験を受験できなくなり、成績はDではなくてXとなる。

【テキスト】

テキストはない。その代わりに、プリント（まとめや説明なども、宿題も）を山ほど配る。（宿題は、提出させない。）

【参考文献】

なし

科 目 名			
英語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	林 宅 男

【講義概要・学習目標】

注意

This course is taught mostly in English.
(この授業は原則英語で行われる)

“English linguistics” (or “eigogaku in Japanese”) is a branch of linguistics, which aims to find out the nature of the speaker’s knowledge of language, how the knowledge is used, and principles and mechanisms underlying the knowledge and use of language. This is an introductory course of English linguistics through which students will learn a wide range of matters on English such as how sounds are made and changed (or phonetics and phonology), how words are made (or morphology), how words and sentences mean (or semantics), how phrases and sentences are formed (or syntax), and how language is used in communication (or pragmatics).

This course is taught mostly in English though Japanese is also used when necessary.

【授業計画】

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| (1) Introduction | (7) Semantics I |
| (2) History of English | (8) Semantics II |
| (3) Phonetics and Phonology | (9) Pragmatics |
| (4) Morphology | (10) Sociolinguistics I |
| (5) Syntax I | (11) Sociolinguistics II |
| (6) Syntax II | (12) Psycholinguistics |

【成績評価の方法】

Grades will be given based on your attendance, reports, quizzes, mid-term & final examinations, and class participation

【テキスト】

- 影山太郎・Brent de Chene・日比谷潤子（著）
「First Steps in English Linguistics ;英語言語学の第一歩」
くろしお出版
- プリント教材

【参考文献】

- Madelon E. Heatherington（著） 児玉仁士・阿部一（編注）
How Language Works -英語学入門 金星堂
- 安藤貞夫・澤田治美（編） 「英語学入門」 開拓者
- 西光義光（編） 「日英対象による英語学概論」 くろしお出版

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
英語学研究－言語習得論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg

【講義概要・学習目標】

われわれは、母語に関しては非常に複雑かつ微妙な知識を持っているが、その知識はわれわれが平易に喋ったり聞いたりする言語行動の基盤である。しかし、その知識をどうたって得られたかという問題は、案外説明しにくい問題である。本授業では、乳幼児の母語（英語）の習得過程のデータを考察しながら、説明を解る。（注意：「説明する」と言わなかった。）

うまくいけば、受講生はつぎの目的を達成する：

- ・科学理論や方法の対象としての習得問題の特徴への理解
- ・自然科学としての言語学と言語習得論との位置づけへの理解
- ・習得問題の複雑さや解きにくさへの理解
- ・習得研究を評価する（ある程度の）能力
- ・習得研究が示唆する、こころに関する帰結への理解

【授業計画】

- 背景知識：
 - ・科学の基礎概念：仮説形成や仮説検証、証拠と反証、予測と説明、など
 - ・減習得論の基礎概念：能力と運用、刺激の貧困、学習可能性、普遍文法、原理とパラメータ、など
 - ・学習の種類：帰納法、演繹法、連合、列挙、刷り込み
 - ・こころに対する2つのアプローチ：経験主義と生得論
- 研究データや仮説
 - ・初期状態：乳幼児の生得の知識
 - ・語や文法の習得：具体例
 - ・習得の原理
 - ・入力の役割：肯定証拠、否定証拠、「母親語」
 - ・言語の異常：言語障害者、自閉症、「狼子女」など

【成績評価の方法】

小テストと学期末試験

【テキスト】

なし

【参考文献】

S. Pinker 著、椋田直子訳『言語を生みだす本能』（上、下）
NHK1995

科 目 名			
英語史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	野 原 康 弘

【講義概要・学習目標】

イギリスを旅してまわると、いろいろな場所で、いろいろな民族が残したのを見ることができる。南西部のソールズベリー平原には、ケルト民族以前の住民たちの遺産「ストーンヘンジ」が今でも謎のまま残されている。ケルト民族伝説のアーサー王の城だったといわれているものは、あちこちに存在している。イングランド北部を横断している「ハドリアヌスの城壁」は、約2千年前のローマ支配の強さを今なお見せている。東部の海岸は「サクソン海岸」と呼ばれ、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。「リンディスファーンの破壊された修道院」はヴァイキング侵略の激しさを物語っている。おびただし数の「フランス語からの借用」は1066年以後、約300年間、フランス語を話すノルマン人支配を知らしめている。このような外的な歴史の変化にともなって、英語という言葉がもたらされ、それ自体も大きく変化してきたのである。この講義では「英語」という言葉が外的な歴史と関連して、「英語」自体の内的な歴史をどのように展開してきたかを学んでいくことになる。

【授業計画】

1. 英語の祖先語
 2. ケルト民族の遺産
 3. ローマ人による征服
 4. ゲルマン人による征服
 5. 英語の始まり
 6. 古期英語
 7. ヴァイキングによる侵略
 8. ノルマン人による征服
 9. 中期英語
 10. Chaucerの英語
 11. 近代英語の始まり
 12. 英国のルネサンス
 13. Shakespeareの英語
 14. 聖書の英語
 15. 近代英語後期
 16. 語形成
 17. 意味の変化
 18. 統語法の変化
 19. アメリカ英語
 20. 世界の英語
- (講義の順番は変更する場合があります)

【成績評価の方法】

試験を重視。出席も考慮する。

【テキスト】

『英語史入門』H. Koziol (小野茂訳) 南雲堂

【参考文献】

授業中にその都度指示する。

【備考】

すでに「世界の英語」や「英語学概論」を受講済みであることが大いに望ましい。

科 目 名			
英米演劇研究—現代版ハムレット			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	小 野 良 子

【講義概要・学習目標】

シェイクスピアの『ハムレット』は1600～1601年ごろに初演、戯曲のテキストは1603年に初めて出版。以後、18世紀初頭までの間に15種類以上のテキストが出版されている。現代のわれわれが読んでいるテキストはこれらの異なるテキストの、編集版、あるいは改定版であり、シェイクスピアのオリジナルのテキストは実は現存しない。

この講義の目的は、『ハムレット』の現代版テキストを読む・観ることを通じて、シェイクスピアの『ハムレット』が現代版の中でどのように編集され、改訂されて、しかもなお、『ハムレット』という芝居の面白さを表現しているかを検討することである。

【授業計画】

- 1～2. 『ハムレット』概論
- 3～10. 『ハムレット』を観る (ケネス・ブラナー主演作品)
- 11～15. 『ハムレット』を読む (研究社版テキスト)
シェイクスピア時代の文化的背景を知る
- 16～19. ブラナーの『ハムレット』再検討
- 20～22. 他の『ハムレット』(映画)を観る
- 23～24. まとめ

【成績評価の方法】

1. 小レポート (講義ごと)
2. 学期末レポート

【テキスト】

『ハムレット』(研究社小英文叢書)

【参考文献】

『シェイクスピア大事典』日本図書センター

科 目 名			
英米詩研究－英語の名詩を読み楽しむ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	金 城 盛 紀

【講義概要・学習目標】

初めて英語の詩を読む文学部学生のための入門科目。

英文学の精髓は詩にある、といわれてもピンとこない。英語は学びたいが、詩は関係ないし、難しそう。でも、ビートルズもシェイクスピアも詩である。ジャズもロックも詩なのだ。古今の名作からできるだけ平易で、喜怒哀楽などだれにも身近なテーマを扱ったのを取り上げる。名優たちの朗読もテープで聴く。面白いと実感してもらえれば本望。

【授業計画】

シェイクスピアから現代まで読みたいが、難易度やテーマは受講生の反応もみて柔軟に調整する。

【成績評価の方法】

平常点とレポート。

【テキスト】

平井正穂編『イギリス名詩選』岩波文庫
 亀井俊介編『アメリカ名詩選』岩波文庫

【参考文献】

適宜、紹介する。

科 目 名			
英米小説研究－作家と文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	澤 崎 由 起 子

【講義概要・学習目標】

①コースにふさわしい文学作品の選定

20世紀アメリカ文学の著名な作家とは誰だろうか？きちんと名前が言えるだろうか？このコースでは、異文化である英語圏（アメリカ）の作品を読みながら、国文学とは違った面白さ、国民的英雄としてのアメリカ人作家（と読者）、ヤンキー的気質、1920年代の風俗、資本主義社会の縮図を、みんなで発見しよう。今年度秋学期に最適なものは、F. スコット・フィッツジェラルドのThe Great Gatsbyだ。

②Gatsbyって誰だっけ？今後の学習理解のために

The Great Gatsby (翻訳タイトル:『偉大なギャツビー』)には、1920年代に活躍したヒーローとヒロインが登場する。登場人物と物語の筋を押さえて行こう。ギャツビーとは、ディジー、ビュキャナンとは？単なる和訳を「つくる」のではなくて、登場人物の性格や身なり、印象を持って、イメージ豊かに読んでみて、自分で言えるようにしよう。

③桃山学院大学文学部の学生として、ふさわしい読解の習慣を研

究。
 原著を読むのは最初は大変だ。でもクラスみんなで文学テキストを読む楽しさは格別だ。文学部の学生として、グループ・各自の予復習は必須だ。おのずと自分から発表できるようになる。文学部の学生としての自覚を持ち、文学作品を文化的要素からとおして読む習慣をつけ、文学部学生にふさわしいリタラシー習得を意識的にめざそう。

【授業計画】

計15回予定の授業進行は次のとおり。初回授業に通知される順番・担当箇所を知り、各自予習のうえ、当番のグループが順次発表して行く。授業では壇上のグループに英文の内容訳をしてもらい、着席している参加学生には、随時質問をしてもらい、訳の正確さを確認し、所感を述べてもらう。グループごとに担当した箇所から読み取れること、気づいたことをきちんとまとめてもらい、授業への積極性を表してもらう。作品には文化的フィルターをかけ、自分なりの読みかたを研くように。

第1回から第5回 The Great Gatsbyからの抜粋を読む

第6回から第10回 The Great Gatsbyのおさらいとフィッツジェラルド1短編の全体

第11回から第15回まで（予定）第10回までに訳を行った文学テキストを比較しながら、気づいた文化的要素に従いながら、物語や登場人物について意見をまとめる。

【成績評価の方法】

ペーパーによる評価は、学期末試験とレポート提出の2通り。後はグループ発表による評価、小テスト類（未実施の場合あり）、出席評価がある。パーセンテージは公表していない。学期末試験受験には、10回以上の授業出席が前提となる。レポート提出については初回の授業にて口頭で伝える。

【テキスト】

- (1) F. Scott Fitzgerald. The Great Gatsby. Scribner.
- (2) F. Scott Fitzgerald. The Short stories of F. Scott Fitzgerald: A New Collection. Ed., Matthew Bruccoli. (本該当箇所コピーを適宜配布する。)

【参考文献】

- (1) 『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ 文学・映画・音楽・メディア』、ニール・キャンベル、アラステア・キーン著。徳永由紀子、藤谷聖和他。(京都：醍醐書房)
- (2) 『感情のカルチュラル・スタディーズ：「スクリーン・ティーン」の時代からニュー・レフト運動へ』山田雄三著。(東京：開文社出版)

科 目 名			
英米文学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	小 野 良 子

【講義概要・学習目標】

ゆりかごから墓場までー幼年期から壮年期まで、人生の局面を英米文学作品を通じて考える。英米文化圏の人々の文学体験、あるいは人生を疑似体験する。

【授業計画】

2回で一作品を読んでいく（英文）。

1. 『不思議の国のアリス』
2. 『クリスマスキャロル』
3. 『ライ麦畑で捕まえて』
4. 『嵐が丘』
5. 『緋文字』
6. 『自負と偏見』
7. 『碾き臼』
8. 『怒りを込めて振り返れ』
9. 『ゴドーを待ちながら』
10. 『ガラスの動物園』
11. 『セールスマンの死』
12. 『管理人』

【成績評価の方法】

1. 小レポート
2. 期末レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業で通知する。

科 目 名			
英米文学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	中 井 紀 明

【講義概要・学習目標】

文学とは何だろうか。文学の「定義」は難しいが、具体的な「文学作品」をあげることは難しいことではない。夏目漱石をはじめようとするいわゆる「古典的」文学作品から宮部みゆきの現代ミステリー『誰か』そして有名無名の「文学」作品が基にあふれている。我々も英文学科で小説、詩、演劇作品など様々な英米文学作品を読んでいる。この講義では、まず一時的に作品から一歩離れて、「文学」の定義を試みる。村上春樹や宮部みゆきを読むことは簡単なことであるが、文学を専門に「研究」というのはどのようなことをすることなのか。読みに何か特別な「専門家」らしきことを加えることなのだろうか。英米文学を「専攻」というのは何か特別な「研究方法」を習得することなのだろうか。おおむね「講義計画」に沿って諸問題を考えていくが、この日本で英米文学を研究するとはどういうことかも考える。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 文学を研究するとはどのようなことをすることなのか（文学理論・批評）
3. 英語の歴史を90分で概観しよう
4. 詩的言語はあるのか
5. 読むとはどのような行為か（意味と解釈そして文学能力）
6. 作者は死んだのか（作者・テキスト・読者）
7. 修辭学、詩学（英米詩）
8. ナラトロジー（英米小説）
9. Shakespeareという巨人（英米演劇）
10. 文学と政治（イデオロギー）

【成績評価の方法】

1. 平常点（出席重視は当然であるが、毎回配布される原文資料集をきっちり読みこなせているかがポイントになる。）
2. 小テスト、定期テストとレポート

【テキスト】

詩については編集したプリントを配布する。小説はメアリー・シェリー作『フランケンシュタイン』角川書店を読む。廣野由美子著『批評理論入門』中公新書で批評理論を学ぶ。劇はシェイクスピアの作品の一つ読んでもらう。

【参考文献】

Robert Eaglestone, Doing English
Jonathan Culler, Literary Theory
George Lakoff, Metaphors We Live by
Robert Scholes, Elements of Literature
他は授業中に言及する。

科 目 名			
英米文学とキリスト教			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	谷 本 泰 三

【講義概要・学習目標】

神と悪魔、信仰と疑惑、希望と絶望、従順と反逆、このような対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。作品に接して、喜びや、恐怖、そして感動を体験して欲しい。講義は常に聖書に言及しつつ原作品に密着して行う。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証して、キリスト教への理解を深め、優れた文学作品が思想に命を与える様子を見ることにある。十回目の講義は、学外から講師を招いて英米のフォークソングやパッドの演奏を聴く予定。

【授業計画】

1. 序論 講義開始に当たって
2. Easter 復活祭とは何か。聖書と復活。「ルカによる福音書」15章
3. E. E. Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス
4. William Wordsworth "We Are Seven" 永遠の命 罪を赦すキリスト/最後の晩餐
5. 旧約聖書「詩篇23 (Psalm 23)」文学の言葉と日常の言葉
- 6, 7 Andrew Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望
8. Emily Dickinson "How happy is the little Stone" Marvellの語り手の悩みへの答
George Herbert "Love" 罪人を赦すキリスト/最後の晩餐
9. John Milton "On His Blindness" 絶望から希望への信仰
10. Folk songs and ballads 死と再生
11. Robert Frost "Stopping by Woods on a Snowy Evening" 死/覚醒
12. 春学期総括
- 13-23 Flannery O' Connor "Good Country People" 滅亡から復活へ予感

【成績評価の方法】

期末試験またはレポート。
出席率、クラスでの発言、クラスへの貢献度等、平素の努力を高く評価する。

【テキスト】

春学期に使用するものは、その都度用意して教室で配布する。秋学期予定の"Good Country People"は生協扱いでFlannery O' Connor 著 A Goodman Is Hard to Find (南雲堂)に入っているものを使用する。使用する「聖書」は、本学キリスト教センターから各受講生にご寄付いただく予定。

科 目 名			
英米文学と現代の諸問題－愛の諸相			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	伊 藤 貞 基

【講義概要・学習目標】

ハイテク化や情報化がますます進行し、女性の自立、シングルやDINKS(子供を持たない共働きのカップル)の時代を経て、ゲイやレズビアン・カップルの誕生という性革命が起こり、そして今や高齢化社会へと向かいつつある現代社会の中で、人びとはどのような愛を生きているのであろうか。夫婦愛、他者への愛、兄弟愛、人類的な愛といった愛の諸相を現代のアメリカ短編の傑作を通して探ってみよう。Carverの作品は、訪ねてきた妻の友人の盲目の男との接触を通してより大きな(愛の)世界に向かって目を開かれる男の物語、Masonの短編はヴェトナム戦争の記憶に苦しみおかしくなった夫とその彼をなんとか救おうとする妻の愛の物語、Fordのそれは不況でクビになり、そのまま人生の坂をころがり落ちるのではないかと怯える男とその妻の愛の物語、Wolffの作品は善意そのもので浮世場離れた文無し宗教フリークの弟と現世的で成功を取めた金持ちの兄との間の愛の葛藤を通じて現代社会における無私の善意の可能性を問いかける寓話、Beattieのそれは平凡な日常生から脱出し、夢とロマンスの世界に生きたいという若い女性の愛への夢を叙情味豊かに『オズの魔法使い』の主題歌に託して歌い上げたものである。

【授業計画】

- 1) "Cathedral" by Raymond Carver (1981)
- 2) "Big Bertha Stories" by Bobbie Ann Mason (1989)
- 3) "Fireworks" by Richard Ford (1987)
- 4) "The Rich Brother" by Tobias Wolff (1985)
- 5) "Whewe You'll Fine Me" by Ann Beattie (1986)

【成績評価の方法】

平常点(授業への出席数、授業中の態度、授業への参加度)と筆記試験・レポート

【テキスト】

伊藤・渡辺編『現代アメリカ作家傑作選』(Masterpieces of Contemporary American Short Stories) 英宝社及びプリント

【参考文献】

なし

科 目 名			
英米文学と現代の諸問題－奴隷制と文学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	佐々木 英 哲

【講義概要・学習目標】

Melvilleの中短編集The Piazza Tales (1856) に収録されている中編小説“Benito Cereno”を取り上げる。主要登場人物は三人である。カトリック教国スペインの奴隷船の船長で、船が黒人奴隷に乗っ取られてしまい、自分は病的で弱々しく気難しい、ある意味で無垢で青年のような特質を併せ持つというのに、事情に疎いアメリカ人の前では白人としての威厳をちらつかせ船長としての面目を繕い、何やら陰謀めいて無気味な素振りさえ覗わせるCereno。白人主人Cerenoに対して従順でそれゆえ無垢な黒人奴隷振りを演じるが、その演技が些か仰々しい余り、グロテスクな感さえ漂わせる反乱主魁Babo。アメリカ船の船長で、民主主義という建国理念と矛盾する奴隷制度を内に抱え込んだピューリタンの国に生まれながら、奴隷制度にまつわる事情におめでたいくらい無知で青い「無垢」なアメリカ人船長Delano。まずはアメリカ社会、アメリカ文学を考える上で避けて通ることのできない人種問題の側面から作品を読む。奴隷制が制度として存続することを可能にさせた論理の背後に、どのような屈折した人間の心理が控えていたのか。典型的黒人、典型的旧世界白人という類型（ステレオ・タイプ）枠を擦り抜ける或いは類型を超えたレヴェルで生じる白人主人側および黒人奴隷側双方の意識とはどのようなものか。奴隷問題は人種（黒人）レヴェルに限定できるのか。また、Delanoが船長をつとめるアメリカ船の名は「独身者の喜び号」であるが、この船名はフェミニズムの観点からしても興味をそそられる。「独身者の喜び」は人種（黒人）にどう関わってくるのか。さらにアメリカ文学でよく指摘される無垢の問題、無垢の可能性という観点からも作品に挑んでみたい。アメリカ的無垢があるとすれば作品のどこに検証できるか。無垢は悪の免罪符か。それとも無垢は悪そのものか。

【授業計画】

マクロ（巨視）的読み、ミクロ（微視）的読みという両面から作品を攻めていく。前者の攻略法はストーリー展開とその連続性、非連続性、人物造型における一貫性と矛盾などを理解するために援用する戦略である。後者の攻略法はいわゆる精読という正攻法で、この方法により書かれてある英語表現を正確に理解し、行間を読むレヴェルまで進み、作者が言い淀んでいる部分にまで立ち入ってみたい。時間が限られていることを考慮し、精読する箇所をこちらからあらかじめ指定しておくので、受講者はその箇所を下読みしたうえで授業に臨む。

なお本講座では希望者を募る形式のレポーター制をとる。レポーターはレジュメを用意し、担当箇所のアウトラインを明示し、キー・ワード（フレーズ）、キー・センテンスなどを手がかりに、問題点を指摘し作品解釈を試みる。またレポーターには必要に応じて史的背景なども調べてもらう。あわせてレポーターは作業の最中に出会った読みづらい英語表現を指摘してほしい。日本人研究者による注釈入りのテキストではないので（残念ながらそのようなテキストは見当たらなかった）、英文として難解な箇所があったら当然である。こちらから授業時にフォローしたい。

【成績評価の方法】

授業の初めに、予習・復習確認小テストを行い、それをもって出席確認に代える。学期末レポート。レポーターとしての発表等、授業への貢献度を高く評価したい。レポーター担当日は休まないようお願いしたい。

【テキスト】

Herman Melville. The Piazza Tales and Other Prose Pieces 1839-1860. Evanston: Northwestern UP.

【参考文献】

授業時に指示。

科 目 名			
英米文学と現代の諸問題－文学・革命！			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大野 裕 之

【講義概要・学習目標】

時代とともに歩んできた文学。小説や戯曲、詩のなかには世の中を変えるぐらいのインパクトを持った作品も少なくない。この講義では英米文学の作品のなかから、＜革命＞を起こした作品について論じる。また、文学と社会・時代の動きとをより深く調べるために、近代英国において＜文学＞を語る場となったコーヒー・ハウスや、＜革命＞を未然に阻止するための装置とも言えるミュージック・ホールについても触れる。さらに、戯曲を通して演劇の革命、1980年代のミュージカルの革命、広い意味で20世紀の文学とも言える映画についても研究する。受講者の積極的な参加を期待する。

【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2～4 文学の革命：シェイクスピアの場合
- 5～7 革命の文学：マルクスのロンドン時代
- 8～10 映画は文学を革命する；パブリーニとチャーサー
- 11～12 帝国演劇の革命；ミュージック・ホールからチャップリンへ
- 13～15 同性愛者たちの革命：シェイクスピア、オスカー・ワイルド、ノエル・カワード
- 16～19 ブルーズ、あるいは黒人・音楽・文学：オーティス・レディング、ビートルズ、忌野清志郎
- 20～23 モダン文学革命：ジョイス、ベケット、寺山修司
- 24～27 ミュージカル革命：ロイド＝ウェバー
- 28～30 まとめ

【成績評価の方法】

課題図書を読んだり、実際に演劇や映画を見てもらった上でのレポート。年2回程度。

【テキスト】

柄谷行人・浅田彰他著『マルクスの現在』（とつても便利出版部）

【参考文献】

講義中に指定。

「演習 I」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	藤田 香	経済学入門	31
02	井田 憲計	経済学、はじめの一步	31
03	一ノ瀬 篤	株価を考える	32
04	梅本 哲世	経済学入門	32
05	桂 昭政	経済について理解を深める	33
06	熊谷 次郎	経済学の常識を知る	33
07	佐賀 朝	現代社会の諸問題	34
08	芝村 篤樹	社会を科学する方法	34
09	滝田 和夫	経済学入門	35
10	辻 洋一郎	“リテラシー”の基礎をつくる。	35
11	唐 成	株式入門	36
12	唐 成	株式入門	36
13	中野 瑞彦	経済の変化から社会を学ぶ	36
14	中村 勝之	大学の「出口」をさがせ！	37
15	西川 憲二	経済学への入門	37
16	前田 治郎	社説を読む	38
17	松尾 純	経済学部に入學したけれど…	38
18	望月 和彦	ディベートを通して社会問題を考える	39
19	矢根 眞二	大学生活を楽しむコミュニケーション能力の基礎 ～ブログとディベート～	39

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	藤 田 香

【講義概要・学習目標】

経済学とは何か？

この演習では、身近な経済現象から経済学の基本的な枠組みについて学習します。

経済学は、何の役に立つのか？

経済に関する意味や仕組みを理解するのは「しんどい」です。しかしながら、ひとたび経済学の知識を身につければ、経済の複雑な問題の輪郭がはつきりしてきます。理解できれば、興味がわき、問題の本質を自分で考え、判断することも可能となるでしょう。

この演習を通じて、経済学部での大学生活をうまく過ごせるノウハウを身につけましょう。

【授業計画】

I 大学生入門

- ① オリエンテーション
- ② パソコン演習

II 経済学部入門

- ① レジューメ作成の練習
- ② 小論文
- ③ 新聞の読み方

III 経済学入門

- ① 教室での報告と討論
- ② レポート作成

具体的な進め方については、第一回の講義の際に、説明する予定です。

【成績評価の方法】

出席することは前提です。

社会常識やマナーを守って行動しない場合（私語、睡眠、携帯（メール）、飲食、遅刻、途中退出、内職、無断欠席等）は除籍します。

その上で、演習に対する取り組みの積極性（ただじっと座っているだけでは評価しません）、報告、討論、レポート、場合によってはテストにより総合的評価します。

【テキスト】

最初の講義で相談の上、決定します。

【参考文献】

必要に応じて、適宜紹介します。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	井 田 憲 計

【講義概要・学習目標】

テーマ「経済学、はじめの一步」

大学生活を始めるにあたってのオリエンテーションの後、経済学を学ぶ意義や方法について基礎的なガイダンスを行う。

少人数のゼミナール形式で、テキストの輪読、発表、討論を通じて、経済学部での大学生活に必要なノウハウと習慣を身に付けることを目指す。

【授業計画】

1. 大学生入門
オリエンテーション
パソコン演習
2. 経済学部入門
レジューメ作成
報告と討論
3. 経済学入門
レポート作成

【成績評価の方法】

出席（無断欠席は許されない）、報告、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

まずは、以下のテキストを手始めとする。

- ・三浦展『下流社会—新たな階層集団の出現—』光文社新書（¥780＋税）

【参考文献】

- ・適宜指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	一ノ瀬 篤

【講義概要・学習目標】

株（式）とは何か、株価とは何か、株価はどのように決まるのか、株式市場の仕組みはどうかなど、株・株価・株式市場の基本知識を身につけることが目標であり、演習の内容でもある。

受講者には 以上のような問題について調べたり考えたりして、報告してもらう。1回の演習で2人ないし3人の報告を受ける。

【授業計画】

(テーマ) 株価を考える

上記テーマの下に、次のようなことを共に考えて行く。

- ① 株価（株式の価格）の騰落はなぜ起こるのか。
- ② 株価はどんな要因で上がったり下がったりするのか。
- ③ そもそも株式とは、株式会社とは何なのか。
- ④ 株式取引はどこで行われているのか。
- ⑤ 自分が株で儲けると他の人が損をするのか。
- ⑥ 最近の株式市場はどのように変容しているのか。

【成績評価の方法】

日頃の報告、質疑、受講態度、および、習得知識の確認のために折々行う小テストを総合的に勘案する。

【テキスト】

教科書は用いない。

【参考文献】

参考文献は、その都度指示する。特に初回に参考資料リストを配布する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	梅 本 哲 世

【講義概要・学習目標】

経済学を学ぶ際に必要なのは、現実の経済事象にたいする生き生きとした関心である。今、日本と世界でどのような経済問題が起こっており、それをどのように理解し、どのようにしたら解決できるのか、という問題意識を常に持ち続けることが大切である。

この演習では以上のような趣旨を踏まえて、現在の世界経済・日本経済で生起している様々な経済問題について具体的に学習していく。

春学期は、まず図書館の使い方、レジュメの書き方等、基本的な学習方法を学んだあと、新聞、雑誌やビデオ教材を使用して今日の世界経済・日本経済について具体的に学習する。

秋学期は、日本経済の現状を考えるために一つのテーマを取り上げて深く学習する。

この演習を通じて、経済学の「おもしろさ」と「奥深さ」を感じてもらって、2回生以降、主体的・積極的に経済学を学習していただければ願っている。

【授業計画】

【春学期】

新聞、雑誌やビデオ教材を用いて、世界経済・日本経済について学ぶ。

【秋学期】

日本経済について一つのテーマを選び、深く考える学習を行う。

【成績評価の方法】

出席を重視し、演習での態度（報告・発言）およびレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献】

授業中に適時指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	桂 昭 政

【講義概要・学習目標】

日本の経済社会は90年代を境にして大きく変化した。比較的平等な横並び社会から格差社会、あるいは厳しい競争社会へと変化した。それと歩調を合わせて雇用、働き方の面においても正社員とパート・派遣社員への二極化ないし格差が進行した。演習 I ではこの変化の実態を勉強し、現在の厳しい経済社会についての認識を深めるとともにその対応について考えていきたい。

【授業計画】

2冊の教科書のうち前半において『働くということ』をとりあげ、年度の後半で『「人間復興」の経済を目指して』を使用する。授業は上記テキストを題材に報告、討論を行う。それとともに関連する経済データのパソコン処理の実習を行い、経済社会の実態についての理解をより一層深めるようにしたい。

【成績評価の方法】

出席をベースに、報告、討論、レポートの評価を加味して判定する。

【テキスト】

日本経済新聞社編『働くということ』（日本経済新聞社）
城山三郎・内橋克人『「人間復興」の経済を目指して』（朝日文庫）

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	熊 谷 次 郎

【講義概要・学習目標】

この演習の目標は、最近の日本経済の仕組みと動きを素材にしなが、経済や経済学に関する基礎的知識を学ぶことにある。そしてこの勉強を通して、この演習履修者は卒業するまでの間に、本学でどのような分野を専門として深めていくか、その方向性を得るようにしてほしいと思う。

【授業計画】

教科書を中心に授業は行う。教科書はやさしく図解されているので、演習生は毎回あらかじめ10頁ほどを必ず読んでおくこと。この前提のもとで、教科書の内容の要約や問題点・疑問点などを全員でいろいろ議論する形式を取りたいと思っている。誰かが教科書の何頁かを担当してその内容等を報告するという形式は取らない。全員参加型で、次々意見を言ってもらうので、必ず10頁ほどは読んでおくという予習をしたうえで演習に参加することが求められる。

【成績評価の方法】

予習をしっかりとってきているかどうか、討議に参加して発言をしているかどうか、数回の提出を予定しているレポートをちゃんと書いて出しているかどうか、出席はどうか、などをもとに総合的に評価する。

【テキスト】

日下公人（監修）『図解・わかる経済のしくみ』ダイヤモンド社、2005年3月（第6刷）、1500円

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	佐 賀 朝

【講義概要・学習目標】

この演習では、大学で学習・研究を行っていくための基本的な能力を身につけるため、現代の世界と日本をめぐるさまざまな社会問題を取り上げて、共同で学習、調査し、発表や討論を通じて理解を深めていく。その際、以下のような能力の獲得が重要である。

まず(1)論述的な文章を読み、その内容を正確に理解すること。次に、(2)特定のテーマについて調べるために文献や資料を収集し、整理・分析すること、さらに(3)そのようにして調べ、分析した結果やそれに対する自分の意見を、文章や発表の形で表現すること、その上で(4)他人との間で討論し、批判しあうことを通じて意見の相違や共通点を確認し、問題についての理解を深めること、である。

書くことや議論すること、あるいは自分で読み、調べ、自分の頭で考え、整理することなどを通じて、自分の疑問や意見を掘り起こし、深めていくことは、他人とは異なる自分を発見・創造し、豊かにしていくためにひじょうに大事な作業である。

1年間の演習を通じて、受講生それぞれが社会問題への関心を深め、自分が取り組むべき何らかの課題を発見することができれば、と考える。

【授業計画】

(前期)

ある問題についての新聞記事や論説・論文などを読み、担当者を決めてその要約や論点整理を行い、関連する資料を調べるなどしながら、疑問・批判なども提示する形で発表し、それを素材に全員で討論を行う。

場合によっては、各自の意見を文章化し、その文面・内容を相互に検討したり、討論の内容をまとめるなどの課題を追加する。

以上の行程を一つの基本サイクルとして作業を進め、まず他人の文章を正確に理解し要約すること、感想や疑問を持ち、それを意見や批判にまで高めること、討論をしながら自分の考えを深めること、論述的文章を書く能力を身につけること、などをめざす。

(後期)

基本的なサイクルは前期と同じ形で進め、扱う文章の分量や内容をレベルアップするとともに、議論を積み重ねていくことを通じて、より内容の豊富な討論や文章作成をめざす。

*なお、取り上げるテーマとしては、戦争と平和、環境問題、教育問題、福祉問題から、若者の雇用問題など、様々なものが考えられるが、受講生の関心も汲み上げながら設定していきたい。

【成績評価の方法】

出席・受講態度、報告、討論、レポート、小テストなどを総合的に評価する。

【テキスト】

特に定めず、随時、プリントなどを配付する。

【参考文献】

授業の中で随時、提示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	芝 村 篤 樹

【講義概要・学習目標】

大学での勉強とはなんであるのか。高校までの勉強とどう違うのか。まずここから考えてみたい。次いで、みなさんは経済学部を選択して入学した。経済学のように、社会を相手に科学するとはどういうことか。

演習では、このようなことを念頭において、社会を科学するために基礎的に必要な力が身につくようにしたい。一番の基本となるのは、社会について問題意識をもつこと、書き言葉、話し言葉を受信し発信する能力を身につけることである。現代社会の諸問題を論じた短文を教材に、受講者が報告し議論する、年に何度かレポートを提出し添削を受ける、これがこの演習の大半となる。

【授業計画】

最初の数回のオリエンテーションを経て、教材をもとに報告・議論をおこなう。報告者は必ずレジュメを準備し、それ以外の人は必ず疑問・問題提起を用意し発言する。年に数回レポートを課し、文章作法についても学ぶ。

【成績評価の方法】

平常点およびレポートによって評価する。

【テキスト】

とくに無し。必要に応じレジュメ・資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じ指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4単位	滝 田 和 夫

【講義概要・学習目標】

今年度の演習は二つのことを目標にしたい。一つは、これからの大学生活を送っていくのに必要な理解・表現能力を身につけることである。すなわち、新聞や論説を読んだり、あるいは人の話を聞いたりして、それを正しく理解して自分なりに要約することができるようにしたい。また、他人の考えを批判的に摂取・加工して自分の意見を形成し、それを書いたり話したりすることによって、他人に正確に伝えることができるようにしたい。もう一つの目標は、経済学部の学生として現代の社会・経済問題に多少なりとも馴れ親しむことである。経済学部に入ったものの、社会科学とか経済学とは何なのか、あまりよくわからないという諸君も多いことであろう。この演習を通じてそのイメージが多少なりともつかめるようになればよいと思う。

これらの目標に近づくために、この演習の前期では社会・経済問題を素材にして、新聞記事や論説等を全員で読んでいく。そして、それを要約したり、関連資料を調べたり、発表したりしながら、全員で討論していきたい。また後期には、各人の研究テーマもとづく個人発表とそれに対する討論を行っていく。

【授業計画】

(前期) はじめに数回、自己紹介や図書館、情報センターなどのオリエンテーションを行う。その後、毎回指示するテーマの社会・経済問題について新聞記事や論説等を全員が読み、決められた報告者が事前にそれについて要約したり調べたりしてきた内容をレジュメにして報告し、全員で討論していく。また時々、指定した課題について全員がレポートを提出する。夏休み前頃には、各人は自分の研究テーマを設定し、夏休み中にその研究テーマに関する文献や資料を調査する。

(後期) 夏休み中の調査・研究を踏まえ、各人が自分の研究テーマにもとづいて調べてきたことを発表し、それに対する討論を行っていく。この作業を何度か積み上げることによって、最終的に各人がある程度まとまった分量のレポートを完成させるようにしたい。

【成績評価の方法】

出席、レポート、受講態度、報告、討論などを総合的に評価する。

【テキスト】

特に定めず、随時プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて、随時指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4単位	辻 洋一郎

【講義概要・学習目標】

入学おめでとうございます。

本来、「演習」科目は、課題について自分で調べ・考えたことを「発表し、みんなで討論する」場です。とはいえ、誰もすぐにホイホイと思った通りに発表し、討論できるわけではありません。そこでこの「演習 I」では、次年次以降の演習科目で成果が上がるために必要な、①考え方の技術や②演習の作法を学習します。

【授業計画】

春学期最初の教回は、大学生活に慣れること、施設の紹介や使い方を学びます。慣れるにつれて、いろいろな教材（ゲームやビデオ、映画）を使って、思考の技術、表現の仕方の勉強をします。

【成績評価の方法】

出席を重視します。

やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員に連絡すること。

【テキスト】

使いません。必要に応じて資料やプリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じて講義中に指示します。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11 12	通期	4単位	トウ 唐 セイ 成

【講義概要・学習目標】

株式は経済を支える生命線であり、経済の体温計とも言われる。この株式入門演習を通じて、諸君が経済・金融に関心を持ち、株式投資の基本への理解を深めることを目的としている。具体的に、演習の前半では、図解やグラフを交えて、日本の証券・金融市場の仕組みや役割といった基本的な事項から、近年大きく進展する証券市場改革などについての基礎知識を理解していく。後半では、株式市場や株式取引のしくみ、株式投資信託の投資法、インターネット取引などを通じて、体系的に株式投資の基本知識を習得する。本演習の最終目標は、演習を終えた段階で、諸君による投資クラブの結成、実際に株式への投資（たとえば中国株（香港株））に挑戦することにある（先生も顧問として参加する）。

【授業計画】

第1回はイントロダクションで、当ゼミの趣旨、ゼミの進め方、テキストの紹介、参加者の自己紹介などを行う。

ゼミ参加者は、学期を通して次の作業に常に関わってください。

1. 毎週のテキスト、関連文献を読むこと。
2. 毎週のゼミの所定のスケジュールにしたがって、ゼミ履修者が順次司会、報告、討論などを担当すること。

【成績評価の方法】

評価方法としては、ゼミの発表、討論への積極的参加、研究課題に取り込む姿勢などを重視したい。

【テキスト】

日本証券業協会編『証券市場2005』日本証券業協会、2005年。
日本経済新聞社編『日経文庫ベーシック 株式入門』日本経済新聞社、2005年。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
13	通期	4単位	中 野 瑞 彦

【講義概要・学習目標】

社会と経済は密接に結びついている。身近な事象の一つ取ってみても何らかの形で経済と結びついている。しかしながら、残念なことに、ほとんどの人が経済の仕組みを十分に理解しないままに生活している。一方で、経済はあまりに身近であるために、自分なりに「理解」していると思っている人も少なくない。本当にそうだろうか？この演習では、身近な経済事象を通じて経済学の基礎を勉強する。そのためには、社会的常識と思われる事柄も積極的に学習していかなければならない。演習参加者には、この演習を通じて、経済に関わる幅広い分野に注目する意識を養ってほしい。

【授業計画】

1. 経済記事の報告・討論…経済に関する身近な話題を取り上げて議論する。
2. パソコン・スキルの習得…経済を分析する上で最低限必要なパソコンのスキル（エクセル）を習得する。
3. テキストの輪読…テキストの内容を分担して報告する。1年間で経済学の基礎的な事項を一通り学習することを目標とする。
4. 経済データの分析…経済データが物語る事象を発見し分析する。

【成績評価の方法】

演習への参加態度（積極性）、中間試験（春学期最終回）、各自課題提出レポートによる。

【テキスト】

ロム・インターナショナル「他人にきちんと説明できる経済の話」三笠書房

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
14	通期	4単位	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

それなりの努力をして、自由を（本当の意味で）謳歌できる大学にせっかく入学できたのだから、思いっきり遊んでやろう…そういう「幻想」を根底から破壊し、来るべき大学卒業後に備えて今から力を蓄えるために、この演習は開講される。そのために、この演習では2つの目標を掲げ、それに向かって邁進して行く予定にしている。

1つ目の目標は、何がしかの「資格」を取得することである。しかし聞こえは良くても実際には役に立ちそうにない資格も（思いのほか）たくさんあるので、ここでは「簿記3級」の取得を目指す。その理由は、実際の企業活動がどんなことをしているのかを簿記の勉強を通じてイメージしてもらうことと、2つ目の目標を達成するのに必要不可欠の知識だからである。

2つ目は、就職活動する上で敵である企業の「実態を暴き出そう」とするための手法の習得を目指す。イメージが良さ気な企業だとしても、本当に（自分にとって）いい企業なのか不明な場合がほとんどである。それ以前に、自分が就職した後でもその企業が継続的に仕事していけるのか、言い換えるとそれだけ儲かっているのかを知る必要がまずある。

やっけて行くうちに分かってくるが、この演習は他の演習に比べるとやるべきハードルを意識的に高く設定している。しかし実社会の厳しさはこんなものではない。この点だけは肝に銘じて受講に臨んで頂きたい。

【授業計画】

※以下の順序で進めて行く。

- ①ガイダンス:目標設定
- ②大学生活の「いろは」の「い」: 図書館&情報センターガイダンス
- ③有名企業の実態を知ろう
- ④簿記3級対策
- ⑤経営分析入門

【成績評価の方法】

- ①中間試験（春学期末に簿記の試験）
- ②期末レポート（秋学期末に経営分析に関する報告書）
- ③平常演習時の参加態度
- ④簿記3級合格

※上記①～④を総合的に判断する。なお評価に「出席点」は含まない。

【テキスト】

第1回演習時に指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

演習情報などはホームページ（<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura>）を参照すること。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
15	通期	4単位	西 川 憲 二

【講義概要・学習目標】

経済学部に入學してどんなことを学ぶのか、経済学って何なのか。どんな役に立つのか。このようなことを考えるために、いろいろなテーマについて説明しながら議論していきたい。そのような中で、話す練習とレポートを書く練習をする。

【授業計画】

1. 大学キャンパス生活
2. ビデオを見てレポートを書いてみよう
3. 新聞記事の読み方

【成績評価の方法】

出席、レポート。

【テキスト】

なし。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
16	通期	4単位	前 田 治 郎

【講義概要・学習目標】

大学での学習スタイルは、高校までのそれとは大きく異なっており、とまどう人も多い。たとえば、決まった答えのない問題（だからこそ研究に値する）を取り上げ、自分独自の見解を見つけだしたり、レジュメ（概要）を提示して自分の意見をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力が求められたりする。この演習では、新聞記事を素材にして、まず全員で要旨や論点の整理の仕方を勉強した後、参加者各人に興味のあるテーマ設定をしてもらい、その報告を積み上げた上で最後にレポート作成をしてもらう。

【授業計画】

1. 資料収集の研修－図書館、インターネット
2. レジュメ作成の練習
3. 各人のテーマ設定
4. 教室での報告と討論（反復）
5. レポートの作成

【成績評価の方法】

出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合的に評価する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
17	通期	4単位	松 尾 純

【講義概要・学習目標】

いま、皆さんは、大学の経済学部に入學したけれども、これから先、どんな生活をおくり、どのように勉強していけば、卒業に必要な単位を無事取得でき、そして 4年後に結果として、どのような未来が開け、どのような職につくことができるのか、いろいろと心配されていることでしょう。

この演習 I は、皆さんのそのような不安を解消して、出来るだけ早く大学生生活に馴染むことができるように、いろいろな手助けをする場です。

この演習 I が、学生生活一般・勉強・課外活動などの不安や心配事について、なんでも話し合える場になるようにしたいと考えています。

【授業計画】

- 1, 大学生生活に馴染もう。(6回程度)
 キャンパス見学。カリキュラム・ガイダンス。
 情報センターに行つてE-Mail・インターネット等を使えるようになるろう。
 図書館を上手に利用し、情報を効率的に取得することが出来るようになるろう。
- 2, 最近話題の社会問題について話し合ってみよう—— I。(7回程度)
 教師が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
 話し合ったことの要約(=レジュメ)を作成してみよう。
- 3, 最近話題の社会問題について話し合ってみよう—— 2。(7回程度)
 学生が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
 話し合ったことの要約(=レジュメ)を作成してみよう。
- 4, 学生各人(またはグループ)がテーマを設定して、その研究結果を報告し、討論をしてみよう。(7回程度)
- 5, 研究テーマについてレポートを作成をしよう。

【成績評価の方法】

出席などの平常評価 と 学期末に提出してもらおうレポートとを総合評価する。

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
18	通期	4単位	望 月 和 彦

【講義概要・学習目標】

当ゼミは、ディベート専門ゼミです。ディベートとは、ある問題に対して賛成派と反対派に分かれて議論を戦わすゲームです。おそらくみなさんはこれまでディベートなんてしたことないと思います。そのためできるかどうか心配だと思っている人もいるでしょう。でも心配ありません。私はこれまで10年間、1回生のゼミでディベートをしてきましたが、みなさん熱心にディベートに取り組んでもらいました。

ディベートはゲームですので、勝ち負けがあります。それを判定するのはディベート担当者以外のみなさんです。司会進行やタイムキーパーも学生がするので、全員がいつもディベートに参加することになります。

どのようにディベートするのかについては、テキストを読めばわかりますし、ゼミの最初に説明を行い、ディベートのビデオも見てもらいます。それで十分わかります。

ディベートは、自分の意見をどんどん言えるので、おもしろい授業になります。なかには話すのが苦手という人もいますが、ディベートは一人ですのではなく、グループで行うので心配はいりません。

本年度はディベートの合間に社会問題についてのテキストも読みます。また色々な社会活動にボランティアとして参加する機会も設けます。

ディベートすることにより、社会問題について関心が芽生えてきます。なぜ勉強するのが分かってきます。自分の判断ができるようになります。このゼミを終えた頃には、世界観が変わった別の自分になっているかも知れません。

【授業計画】

参考までに2005年度の演習 I で行なったディベートテーマを挙げておきます

- 第1回 死刑制度
- 第2回 ゆとり教育
- 第3回 ゲームは子どもにも有害か
- 第4回 北朝鮮問題
- 第5回 いじめに対してどう対処するか
- 第6回 カジノ建設
- 第7回 憲法改正
- 第8回 日本人は働き過ぎか
- 第9回 クロヨン人間研究
- 第10回 学級崩壊の原因は個人か学校制度か
- 第11回 がん告知
- 第12回 有料化でゴミは減るか
- 第13回 靖国神社参拝
- 第14回 ひきこもりの原因は個人か社会か
- 第15回 郵便貯金の民営化
- 第16回 歴史教科書の改訂
- 第17回 自殺は容認されるか
- 第18回 消費税率は引き上げるべきか

【成績評価の方法】

出席、発表、ディベートの成績によって評価する。

【テキスト】

望月和彦 『ディベートのすすめ』 有斐閣選書
三浦展 『下流社会』 光文社新書

【参考文献】

文藝春秋編 『日本の論点』 シリーズ 文藝春秋社
鷲田小彌太 『哲学がわかる事典』 日本実業出版社
鷲田小彌太 『現代思想がわかる事典』 日本実業出版社
よみうりテレビ編 『紳助のサルでもわかるニュース』 実業之日本社
猪瀬直樹 『日本国の研究』 文藝春秋社
浅羽通明 『大学で何を学ぶか』 幻冬舎

科 目 名			
演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
19	通期	4単位	矢 根 眞 二

【講義概要・学習目標】

これらからの大学や社会での生活を楽しみながら効率的に学習できるような「聞き話す」・「読み書く」というコミュニケーション能力の基礎の確立が学習目標です。具体的には、春には現代の鉛筆であるPC（パソコン）を用いて短いEssayやBLOGを書き、HP上にアップしたりプレゼンしたりする練習を、秋にはチーム対抗のディベート・ゲームを通じて討論したり質問したりする練習を中心に学習します。

ポイントは、1人で黙って聞くことが中心の講義とは違って、いずれの練習にも自分から積極的にコミュニケーションの工夫を工夫する姿勢を持ち楽しみながら取り組むことです。

【授業計画】

- 春はもっぱらPCを用いた現代版の「読み書き」の練習が中心で、ネット上の仮想株式取引ゲームにもチャレンジする予定です。取り組む課題が多いので、自分のHPを作ったこともない人は「経済情報処理演習」などを、そもそも文章を書くこと自体が苦手な人は「論述作文」などを履修しておくことを推奨します。
- 秋からはディベート・ゲーム中心に切り換え、人前で論理的に明解に話す練習が中心になります。日頃の新聞記事の理解から抽象的な論理力までフル活動させて、自分なりのコミュニケーション・スタイルの基礎を工夫しましょう。

★以上のプログラムの詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい。

<http://rio.andrew.ac.jp/~yane/>

【成績評価の方法】

- 個人的な努力とプログラムの達成度に加え、チームや演習全体への貢献度を加味した平常点をもとに評価します。もともと「大学・社会の生活を楽しめる基礎的なコミュニケーション能力の基礎の確立」が目的ですから、合格ラインは以下のように緩やかなものです。
- 春はもっぱら「言われたこともできない」ようなレベルからの脱却を最低限のラインとし、遅刻をせず提出期限を守るといった自己管理能力の確立を目指します。
- 秋は「言われたことしかできない」ようなレベルからの脱却を最低限のラインとし、資料の収集や発表の仕方の創意工夫に注目します

【テキスト】

- 望月和彦（2003）『ディベート入門』有斐閣 1900 → ディベートのテーマ・論点・資料が一目で分かるマニュアルで、本演習ではこれらのテーマから興味のあるものをピックアップしてゲームを行います。
- ブラウン・キリー（2004）『質問力を鍛える クリティカル・シンキング練習帳』PHP研究所 1400 → コミュニケーション能力の向上に不可欠な要素である論理力の基礎を確認できる入門書で、エッセイやディベートはもちろんで、日常の授業の理解や将来の就職活動等に不可欠な基礎力の修得に活用できます。

【参考文献】

- 「日本経済新聞」→ 本演習では「習うより慣れろ」で仮想株式取引ゲームをプレイしますが、日頃の新聞記事に関心が持てればずっと楽しく有意義にプレイできるうえ、そうした知識は経済学の学習や就職活動においても不可欠です。
- 野口悠紀雄（2002）『「超」文章法： 伝えたいことをどう書くか』中公新書 780 → 本演習や大学の試験のような短い文章から長文のリポートや論文にも共通する幅広い文章作成に便利なマニュアルで、網羅的な参考文献リストは社会人になっても座右に置く価値があるでしょう。

「演習Ⅱ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	阿部 秀二郎	経済的な自由について考える	41
02	阿部 秀二郎	これからの社会を経済学的に考える	41
03	石橋 貞男	金融の基礎	42
04	浦出 俊和	食と環境の関わり	42
05	大沢 健	グローバリゼーション	43
06	河合 勝彦	キャリア設計の経済学	43
07	佐々木 和子	「ボランティア」を考える	44
08	佐々木 和子	「食べる」ことを考える	44
09	田村 剛	ゲーム論からみた終身雇用制と文化	45
10	松本 誠	地域政策とまちづくりを考える	45
11	三原 裕子	新聞を読む	46
12	山田 雄久	戦後について考える（占領期の日本）	46
13	吉川 真裕	株式投資を学ぶ	47

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	阿 部 秀二郎

【講義概要・学習目標】

経済学は、経済学を専門に勉強しても有意義な意味がありません。経済学の背後に存在する人間と社会を考え続けなければ、数十年後には虚しさが押し寄せます。しかし情と気力だけでは、現在を乗り切ることができません。正確な知識と判断力を身に付けないと、苦しい生活になります。この講義では経済学という専門的な知識と自由という一般的な考え方を土台にして、正確な知識・判断力と豊かに生きるために考える方法について議論しながら、学習していきたいと思ひます。

【授業計画】

前期は、テキストを読み、経済学についての知識と考え方を身に付ける方法について議論してゆきます。

後期は、前期で議論した内容に基づいて、自由と経済活動について、そして今後の実り豊かな生活の構築について議論してゆきます。

【成績評価の方法】

最終的には初回に議論して決定しますが、現在のところ以下のように考えています。

出席点：20点、議論点：30点、レポート点30点

【テキスト】

『市場社会の思想史—「自由」をどう解釈するか—』、間宮陽介著、中公新書、1999

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

ともに考えることが大切です。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	阿 部 秀二郎

【講義概要・学習目標】

「読み・書き・考え・表現する」ことを、経済学について、そして人間と社会について勉強します。人間は怠惰な部分が多いと私は思ひます。つまり自分で考え、行動するのが面倒くさいと思うことが人間の一つの特徴だと思ひます。だから都会に人は集まりたがるのではないのでしょうか？都会ですと人の目が気になりませんが、他の多くの手本が存在します。けれど田舎にはそれが存在しません。田舎で居心地のいい人は伝統に寄り添ってますし、居心地の悪い人は伝統を変えようと思ひません。経済の発展と田舎の停滞は表裏の関係にあると思ひています。人間の怠惰と経済の関係について議論をしながら、経済の知識と考え方を高めることを目標にします。

【授業計画】

以下のテキストを丁寧に、読み理解します。そして自らの体験や経験をもとに批判的にテキストを解釈してゆきます。その過程で、自ら独自の考え方を深め、表現する力を養ひます。

【成績評価の方法】

最終的には初回の授業で決定しますが、以下のように考えています。

出席点：20点、議論点：30点、レポート点：30点

【テキスト】

『人間回復の経済学』神野直彦著、岩波新書、2002

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

自分で調べる癖をつけましょう。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	石 橋 貞 男

【講義概要・学習目標】

現代経済の動きを理解するためには、金融についての知識がポイントとなります。この演習では、最も基礎的な知識の習得から始め、国際化・情報化・証券化をキーワードとしながら、幅広く金融について勉強します。

金融の分野は抽象的で、範囲が広く、しかも専門化が進んでいます。大変難しい印象を受けます。しかし、お金に関することなのである意味では最も日常生活になじみのある分野です。演習に参加し、金融について一から学びたい人の受講を望みます。

【授業計画】

演習の進め方は、次のとおりです。

- 1, 教科書を少しずつ読んでいきます。
- 2, 金融についての「新聞記事」を読みます。

【成績評価の方法】

演習での報告・発言及び出席状況を重視します。

【テキスト】

斎藤精一郎著『ゼミナール現代金融入門（改訂4版）』日本経済新聞社, 2003年

【参考文献】

斎藤精一郎著『痛快！金融学』集英社インターナショナル, 2004年

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	浦 出 俊 和

【講義概要・学習目標】

経済発展とともに、我々の食生活は非常に豊かになり、飽食ともいえる状況にある。しかし、その一方で、「安全性」「環境」といった重要なことが犠牲にされているのではないだろうか？本演習では、特に「肉食」に焦点を当て、その背景に存在する様々な諸問題を取り上げ、我々の「食」と「環境」の関係について考える予定である。

本演習では、テキストの輪読と報告、およびレポートの作成を通じて、読解力・プレゼンテーション能力・文章作成の向上を図ることを課題とする。さらに、参加者の討論への積極的な参加を重視する。

【授業計画】

前期では、基本的には、テキストを輪読し、分担報告と討論を順番に行ってもらい、その後、レポートを作成してもらう。

後期には、参加者の間で共通した関心問題を取り上げるか、もしくは、新たなテキストを用意する予定である。

また、前期・後期とも、テキスト以外に、ビデオを見たり、適宜必要な文献を読んで、同じく討論を行った後に、レポートを作成してもらう予定である。

詳細については、初回に指示する。

【成績評価の方法】

出席状況、報告内容、レポートに加えて、授業参加への積極性（発言機会・内容等）を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

中村三郎著『肉食が地球を滅ぼす』双葉社, 2003年

【参考文献】

必要に応じて演習の中で紹介する。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	大 澤 健

【講義概要・学習目標】

経済学に関する基礎的な文献をゼミ形式で読んでいきます。ゼミ形式の授業に慣れるとともに、「本を読んで理解する」「内容をまとめる」「参加者に理解できるように発表する」「内容について議論する」といったベーシックなコミュニケーション能力をつけることを目標としています。

【授業計画】

今年度はグローバリゼーションに関する本を1年かけて読んでいきます。合間に適宜ビデオ等も見ます。グローバリゼーションというのは市場の世界化、世界的拡大を表現する言葉ですが、現在の世界の経済で何が起きているのかを理解しながら、経済学についての基礎的な知識の習得を行います。

最初はトーマス・フリードマン著「レクサスとオリーブの木」を読みます。

読了後は受講者のペースと興味関心にあわせてその後のテキストを選定します。

【成績評価の方法】

平素の授業態度によって評価します。ゼミ形式の講義なので、出席を重視します。

【テキスト】

トーマス・フリードマン著「レクサスとオリーブの木」草思社

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	河 合 勝 彦

【講義概要・学習目標】

「自己のキャリア形成」をキーワードに、大学生活に必要な「読み」、「書き」、および「発表する」能力を養うことを目標とします。

【授業計画】

受講生は、毎時間、簡単な小レポートを作成し、担当者がコメントを加えます。

1. 大学生の勉強方法を身につける。
2. 大学設備の利用方法を調査する。
3. インターネットを効果的に利用する。
4. 正確に読む。
5. 正確に書く。
6. 人に伝わるように発表する。

【成績評価の方法】

出席、授業態度、課題提出を総合的に判断します。

【テキスト】

新書を何冊か指定します。また、参考となる新聞記事などを講師が配布します。国語辞書（電子辞書でも可）を毎回持参してください。

【参考文献】

村上龍『13歳のハローワーク』幻冬舎 2003年

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	佐々木 和 子

【講義概要・学習目標】

11年前の阪神・淡路大震災。多数のボランティアが全国からかけつけ、ボランティア元年といわれた。そこで何がおこり、何が生まれたのか。10年余りを経た現在からボランティアとは何かを考えるのが本演習の目的である。まずボランティア論の先駆的なテキストの輪読をおこなう。

テキストを読み解く力の育成を第一とする。自分が理解するだけでなく、さらに人に伝えられるところまで内容を読み取り、まとめる力も目指していく。

演習形式の授業とし、お互いの意見を出しあい、深める場とする。

【授業計画】

前期

テキストを読んでみよう。
著者の言いたいところを読み取ろう。
意見交換を通じて、自分の考えを確かめよう。

後期

関心のあるテキストをさがしてみよう。
テキストの内容を人に伝えるようにしてみよう。
みんなの前でまとめを発表してみよう。
議論を通じて、考えを深めよう。

【成績評価の方法】

出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【テキスト】

金子郁容『ボランティア ―もうひとつの情報社会』1992年 岩波新書

【参考文献】

秦 辰也『ボランティアの考え方』1999年 岩波ジュニア新書

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	佐々木 和 子

【講義概要・学習目標】

「食」について考えたことがありますか。現在私たちの食卓にのぼる食べ物のほとんどは、海外からきている。それらはどのような経緯をへて、私たちの口に入っているのだろうか。安全性について考える前に、私たちから遠く離れたところで作られている食べ物について、テキストの輪読を通じて、考え直してみたい。そこから、日本と途上国との関係、途上国の人々と日本企業の姿についても考察をおこなう。

テキストを読み解く力の育成を第一とする。自分が理解するだけでなく、さらに人に伝えられるところまで内容を読み取り、まとめる力も目指していく。

演習形式の授業とし、お互いの意見を出しあい、深める場とする。

【授業計画】

前期

テキストを読んでみよう。
著者の言いたいところを読み取ろう。
意見交換を通じて、自分の考えを確かめよう。

後期

関心のあるテキストをさがしてみよう。
テキストの内容を人に伝えるようにしてみよう。
みんなの前でまとめを発表してみよう。
議論を通じて、考えを深めよう。

【成績評価の方法】

出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【テキスト】

村井 吉敬『エビと日本人』1998年 岩波新書

【参考文献】

出雲公三『バナナとエビと私たち カラー版』2001年 岩波ブックレット

村田 武『コーヒーとフェアトレード』2005年 筑波書房

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4単位	田 村 剛

【講義概要・学習目標】

伝統的な経済学（主に新古典派経済学）では、文化という視点を考慮せずに論理が構築されてきたという指摘がある。つまり、それは経済と文化との間にはなんら関係がないということを示している。

しかし、制度に着目すると、制度と文化との間には密接な関係があるだけでなく、経済の効率性にも強く影響する。例えば、日本には重要な制度の一つに終身雇用制があるが、これは日本文化を反映したものであり、文化とも密接に関連している。

本演習では、ゲーム理論を用いて終身雇用制と文化との関係をはじめ、経済と文化の関係、経済に対する文化の役割やその重要性などについて考えていく。

また、テキストの輪読をはじめ、報告・議論、レジュメやレポートの作成といった一連の作業を通じて、読解力や文章作成能力の向上を図ることを課題としている。

【授業計画】

本演習では、基本的に1冊のテキストを完全に理解するまで読むという方向で進める。

基本的な演習形式としては、まずテキストを輪読した後、報告担当者にレジュメを用意してもらい、それに基づいて報告してもらう。次に各出席者に意見を出示してもらい、基本的に報告担当者が中心となり、みんなで議論を行う。

【成績評価の方法】

出席状況、報告内容やレポートの出来具合等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

荒井一博『終身雇用制と日本文化-ゲーム論的アプローチ-』

【参考文献】

演習時に随時指示する。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4単位	松 本 誠

【講義概要・学習目標】

21世紀社会は「国家」が後退し、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。

こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、分権型社会における政治、経済、社会の各分野における新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。

担当教員は長年にわたり新聞記者として地域づくり、まちづくり、地方自治の現場をジャーナリストの視点から観察し、報道・評論してきた。幅広い視野から、新しい社会のあり方や学生諸君のアプローチの仕方をともに学び、力をつけていきたい。

【授業計画】

本演習では、上記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。

1. テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。
2. 各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。
3. 報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める
4. 教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。
5. 報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。

【成績評価の方法】

期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。

【テキスト】

田村 明著 「まちづくりの実践」(岩波新書)
 神野直彦著 「地域再生の経済学」(中公新書)

【参考文献】

田村 明著 「まちづくりの発想」(岩波新書)
 地域情報会議編著 「地域の価値を創る」(時事通信社)

川村健一+小門裕幸著 「サステイナブル・コミュニティ」(学芸出版社)
 松本 誠著 「市民が変える明石のまち」(文理閣)

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4単位	三 原 裕 子

【講義概要・学習目標】

経済学を学ぶことは、日々刻々と変化する経済状況を理解する大変有益な武器となります。言い換えれば、経済学の基礎をしっかり理解し、現実の経済状況を把握することで様々な視点から経済の動きを理解することが出来るはずです。

そこで本演習では、最低限必要な経済学の知識を学んだ上で、実際に新聞を読む事を通じて現実の経済を見る目を養うことを目的とします。また、今起こっている経済の動きだけではなく、それに関係する過去の経済の動きも同時に見る事で、より理解度を深めることを目的とします。

【授業計画】

テキストと新聞を同時に読んでいきます。テキストで基本的な経済学の知識を学んだ上で、新聞を読むことによって経済の動きを把握していきます。

【成績評価の方法】

ゼミ発表および課題提出などによって評価します。

【テキスト】

岡部直明『日本経済入門』2004年 日経文庫

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
12	通期	4単位	山 田 雄 久

【講義概要・学習目標】

現代日本の政治経済を理解するためには、歴史的にいかなる意思決定が社会的レベルでなされてきたかを認識し、過去の営みについて、現代的視点から相対化していくことが肝要である。高度経済成長の時代までの政治史・経済史を振り返り、批判的に様々な論客の考えについて思いをめぐらし、議論を深めることが十分可能な時代に入ったと思われる。とりわけ産業政策という視点から、占領期の日本を取り上げ、高度経済成長へと続く日本経済の基層構造について多面的に検討する。

【授業計画】

テキストの内容について批判的に読みながら要約を行い、関連文献をとり上げながらディスカッション方式にて授業を進める。報告者は必ず報告資料を事前に用意し、参加者へ配布していただきたい。テキスト以外の文献についても読み進めることで、社会科学に対する幅広い視野を形成することが期待される。授業中毎回出欠をとるので、欠席する場合には必ず事前に連絡をとること。(連続欠席者は基本的に認められないので注意願いたい)

【成績評価の方法】

最終の授業まで熱心に参加し続けた人に対し、成績評価を与える。参加者は、自らの頭で考え、自らの意見を発表することで履修上高く評価される点をあらかじめ了解しておくこと。

【テキスト】

田原総一郎『日本の戦後(上)』講談社、2004年

【参考文献】

授業中、研究者や評論家による関連著作類を順次紹介していく予定である。

科 目 名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
13	通期	4単位	吉 川 真 裕

【講義概要・学習目標】

株式会社の仕組みや株式市場の仕組みを学習し、パソコンを使ったシュミレーション（投資ゲーム）を通じて株式投資を自分で行えるようになることを目的とする。

株式会社や株式市場、株式投資を理解することは現代の社会を理解する上で不可欠だけでなく、安定した老後の生活を送るためにもなくてはならないものである。銀行預金や国債だけではインフレの生じやすい現代の世の中で長期にわたって購買力を保持することは困難である。また、リスクをとらない活動ばかりでは経済成長も限られてしまう。株式投資はギャンブルにもなるが、使い方を間違わなければ有利な資産運用方法であり、そのことを知っているのと知らないのでは大きな差がついてしまう。

なお、デイトレードで生活していこうと考えているような人には直接役立つというような内容ではない。

【授業計画】

まず、グループごとに分かれてテキストの内容を発表してもらい、その内容について議論していく形で進める。それと同時に、グループごとに株式投資のシュミレーションを行ってもらう。

後半では各自が株式投資のシュミレーションを行い、その成果を発表してもらう。

テキストの構成は以下の通り。

1. 株式会社とは何か
2. 会社経営の仕組みはどうなっているか
3. 「お金の流れ」から「資金調達」まですべて
4. これからの会社はどう変わるのか
5. 給料・ボーナスの仕組みから勤務形態、年金まで

【成績評価の方法】

①授業態度と②株式投資シュミレーションに関するレポートに基づいて評価する。

【テキスト】

高橋元、『「株式会社」のしくみがわかる本』、三笠書房（知的生きかた文庫）、533円+税。

科 目 名			
応用言語学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	橋 内 武

【講義概要・学習目標】

応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら4つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来日本語教師や言語聴覚士などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらうことが、学習目標となる。

【授業計画】

1. 応用言語学とは何か一言語と方法
2. 言語問題の学一言語障害、言語の消滅、ことばの乱れ、誤訳
3. 異言語教育学—教授法、教師・学習者、教材、辞書、評価
4. 学際的言語学—神経言語学、心理言語学、人類言語学、社会言語学、法言語学、経済言語学など
5. 「ことばの職業」研究—日本語教師、言語聴覚士、通訳、英語教員

【成績評価の方法】

ブック・レポート A4 ワープロ3枚1200字：20%
期末試験：80%

【テキスト】

山内進（編著）言語教育学入門、大修館書店。
徐龍達・遠山淳・橋内武、多文化生社会への展望、日本評論社。

【参考文献】

白畑知彦ほか著 『英語教育用語辞典』 大修館書店 1999
ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）『外国語教育学大辞典』 大修館書店 1999

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目

科 目 名			
音声学・音韻論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	南 條 健 助

【講義概要・学習目標】

音声学 (phonetics) とは、音声を科学的に研究する言語科学 (linguistic sciences) の一分野であり、同時に、あらゆる音声を正確に聞き分け、かつ発音し分けることができる、いわば職人芸 (art) でもある。また、イギリス学派音声学 (British school of phonetics) では、音韻論 (phonology) も音声学の一部であると見做される。

この授業では、イギリス学派の伝統である実践音声学 (practical phonetics) というやり方によって、標準的なアメリカ英語の音声を、主として調音 (articulation) の面から研究する。実践音声学の手法を用いるためには、まず初めに、たとえ日本人であっても、アメリカ人と区別がつかないくらい、アメリカ人そっくりの発音ができる技能を身につけなければならない。授業では、どうすればそういう発音ができるようになるのかを詳しく解説し、そのための音声学訓練 (phonetic training) に多くの時間を割くつもりである。また、そのような訓練と並行して、毎回少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強してゆくことにしたい。

【授業計画】

1. 入門編
2. 強勢とリズム
3. 音調
4. 音のつながりと音変化
5. 子音
6. 母音
7. 発展編

【成績評価の方法】

原則として、定期試験 (80%) と提出課題や小テスト (20%) を総合して評価する。定期試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていないと解答できない問題を出題する。また、8回以上欠席した者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。

【テキスト】

開講時まで指定する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

【備考】

<02~05生>

E・SS・SW・B・J生は、日本語教員資格科目 (随意) として履修

科 目 名			
会計学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	2単位	谷 武 幸

【講義概要・学習目標】

「会計」(accounting) は「企業の言語」(language of business) と言われる。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business person) は〈会計〉で話をしているというわけである。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できない。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功 (出世) もおぼつかない。本講義は、企業の言語の基本的な会話法を伝授する。〈学習目標〉

企業の言語の基本的な会話力を身につけるため、以下を学習目標とする。

- (1) 資産・負債・資本・利益・資金など、財務諸概念の意味を理解する。
- (2) 企業から提供される財務情報に込められた、数字の意味を読み取る。
- (3) 企業により提供される財務情報について、その実践的な利用法を学ぶ。
- (4) 経営学部専門科目の履修に際し、必須の基礎知識を修得する。

【授業計画】

テキストの目次は次の通りであるが、進行状況を勘案して講義する。

- 第1章 会計とは?
- 第2章 基本的な会計情報とは?
- 第3章 決算書の情報を分析するには?
- 第4章 税金はどのように計算するのか?
- 第5章 コストと会計情報とはどのように結びつくのか?
- 第6章 経営管理に会計情報をどう役立てるのか?
- 第7章 財務諸表は本当か?
- 第8章 決算書の内容や様式はどのように決まるのか?
- 第9章 会計は職業とどう結びつくのか?

【テキスト】

小林哲夫・全在 紋・朴 大 栄 (共編著)
『まなびの入門会計学』(中央経済社)

科 目 名			
会計学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	秋学期	2単位	チン 全 ジェ 在 ムン 紋

【講義概要・学習目標】

「会計」(accounting)は「企業の言語」(language of business)と言われる。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business person)は〈会計〉で話をしているというわけである。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できない。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功(出世)もおぼつかない。本講義は、企業の言語の基本的な会話法を伝授する。〈学習目標〉

企業の言語の基本的な会話力を身につけるため、以下を学習目標とする。

- (1) 資産・負債・資本・利益・資金など、財務諸概念の意味を理解する。
- (2) 企業から提供される財務情報に込められた、数字の意味を読み取る。
- (3) 企業により提供される財務情報について、その実践的な利用法を学ぶ。
- (4) 経営学部専門科目の履修に際し、必須の基礎知識を修得する。

【授業計画】

テキストの目次は次の通りであるが、進行状況を勘案して講義する。

- 第1章 会計とは？
- 第2章 基本的な会計情報とは？
- 第3章 決算書の情報を分析するには？
- 第4章 税金はどのように計算するのか？
- 第5章 コストと会計情報とはどのように結びつくのか？
- 第6章 経営管理に会計情報をどう役立てるのか？
- 第7章 財務諸表は本当か？
- 第8章 決算書の内容や様式はどのように決まるのか？
- 第9章 会計は職業とどう結びつくのか？

【成績評価の方法】

授業の出席状況、課題(宿題)の達成状況、および筆記試験の総合点で評価する。

【テキスト】

小林哲夫・全在紋・朴大栄(共編著)
『まなびの入門会計学』(中央経済社)

【参考文献】

参考資料は適宜配布します。

科 目 名			
会計学原理			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	中 村 恒 彦

【講義概要・学習目標】

会計学原理では、簿記や会計の歴史について学習しながら、会計理論について勉強します。講義の関連上、簿記の知識が事前にあるほうが望ましいです。

具体的な内容としては、簿記の基本的な疑問や会計学の疑問について歴史に触れながら考えます。たとえば、なぜ借方・貸方があるのか、なぜ期間を区切って計算しているのか、なぜ減価償却をしなければならないのかなどです。

テキストに沿って進める形をとりますので、必ずテキストは、購入して予習・復習などを欠かさないでください。

【授業計画】

1. 方法と対象
2. 複式簿記
3. 期間計算
4. 近代会計の成立環境
5. 固定資産会計
6. 近代会計制度

【成績評価の方法】

期末試験(100点) + 出席点・レポートなど(60点)

【テキスト】

友岡賛 [1996] 『歴史にふれる会計学』有斐閣アルマ

【参考文献】

加古宜士+大塚宗春 [2004] 『財務会計の理論と応用』中央経済社。
中野常男 [1992] 『会計理論生成史』中央経済社

【備考】

<02~05生>

共通自由科目として、B生対象外

B生は学科教育科目

科 目 名			
介護演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	川 井 太加子
02	秋学期	2単位	山 崎 イチ子

【講義概要・学習目標】

介護概論を受けて、介護の理論と技術を実践的に展開する方法について学習する。加齢や心身の障害を持ちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるか、尊厳や個別性を尊重した援助を行うことができるか、予防的視点をもって援助を行うことができるか、さらには生涯にわたって成長し続ける存在としての人をどのように援助できるか、具体的な事例を用いて学びあう。

【授業計画】

介護を必要とする人々にとって安全でかつ安楽な介護技術を、原理・原則をふまえて習得する。

- 1、オリエンテーション
- 2、介護とコミュニケーション
- 3、観察
- 4、記録と報告
- 5、介護過程
- 6、日常生活援助に必要な介護技術
- 7、医療上の対応 他

【成績評価の方法】

出席重視、その他レポートなどにより総合的に評価する。

【参考文献】

初回授業で紹介する。

科 目 名			
介護概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	山 崎 イチ子
02	春学期	2単位	川 井 太加子

【講義概要・学習目標】

- 1 介護の役割を理解するとともに、看護・医療との関係について理解する。
- 2 具体的な介助方法の実際について演習形式で学ぶ。
- 3 高齢者の身体的および精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に対処できる能力を養う。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 介護の機能および範囲
- 3 加齢に伴う心身の変化
- 4 高齢者体験・車椅子体験などの演習
- 5 介護専門職と保健・医療専門職との連携
- 6 介護技法
 - 1) 身体の自然な動き
 - 2) 食事
 - 3) 排泄
 - 4) 移動
- 7 コミュニケーション技法
- 8 痴呆高齢者の理解と介護
- 9 ターミナルケア

【成績評価の方法】

出席、試験、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

新版社会福祉養成講座14 介護概論（中央法規）